

ベシ、但シ債券ノ種類性質ニヨリ其ノ割合ヲ上下スルヲ要スルハ當然ナリ、又或場合ニハ普通ノ引受報酬ニ對スル外、債券發行ニ當リ種々ノ協議相談ヲ爲スヲ常トスルガ故ニ、之ニ對シ特別報酬ヲ徵スルモノアリ。又債券發行會社ノ不履行ニヨリ擔保權實行ノ場合ニアリテハ、ソレニ必要ナル特別ノ報酬ヲ受クルモノトス、要スルニ債券發行引受ノ場合ニアリテハ、其ノ責任ニ對シ報酬餘リニ小ナリトハ米國ニ於テ一般ニ行ハル、輿論ナリトス、引受團ノ團長トシテノ報酬並ニ一般債券ノ引受ニ關シテハ當事者間ノ約束ニヨリテ定マルモノニシテ、引受團ガ社債發行者ヨリ受クル報酬モ單純ナル仲介者トシテノ報酬ト、若シ募集殘リヲ生ジタル場合ハ自己ノ計算ニテ引受クル場合ニヨリ其ノ報酬額モ異ルベク、引受團中ニアリテモ其ノ團體ノ主腦者トシテ團體員ヲ整理指揮スルノ任ニアルモノハ、特ニ團員間ノ約束ニヨリ多額ノ報酬ヲ受クベキハ明カナリ。

利札支拂ニ關シテハ地方ニヨリ大ニ異リ、多クノ場合ニ支拂基金トシテ受入レタル高ニ對シ千分ノ一・五―二・五位ノ手数料ヲ徵スルモ、紐育州ノ如キニアリテハ其ノ資金拂出數日前ヨリ預入セラル、場合ハ其ノ運用ヲ以テ報酬ト看做シ特別ノ手数料ヲ徵セズ、又會社ハ一方ニ於テ利札配當元本ノ支拂ヲ託セラル、ト共ニ

他方ニ之ガ受取ノ依頼ヲ受ケ其ノ手許ニ於テ巨額ヲ整理スルノ便アリ、從ツテ表面ノ報酬ハ少キモ其ノ報酬ハ兩者ヨリ受クベキモノナルガ故ニ割合ニ大ナル事アルベシ。

第五 其ノ他ノ事務ニ關スル報酬

其ノ他信託會社ハ株式社債名義書替代理及ビ株式社債登錄人トシテノ報酬ヲ受クルモノニシテ、前者ハ會社設立又ハ社債發行ニ當リ爾後該株式社債ノ買賣移轉ニ關スル名義書替人タル事ヲ會社ヨリ依頼セラレ、後者ハ株式社債ガ發行セラレタル後其ノ株券債券ノ發行ヲ登錄シ置キ、爾後超過發行及ビ發行ノ正否ヲ保證スルモノニシテ、此ノ事務ハ名義書替代理人ニヨリテ爲サル、事アリ、又ハ株式取引所ニヨリテ行ハル、場合アリ、而シテ信託會社ニヨリテ行ハル、事モ亦多シ、彼等ハ其ノ勞務ニ對シ委託會社ヨリ報酬ヲ受クルモノニシテ、取引ノ頻繁ナル株式社債ニアリテハ名義書替ノ手数料ハ相當大ニシテ、登錄人ノ責任ニ比シ法律上ノ要求大ナルヲ以テ、其ノ報酬モ登錄人ノソレニ倍スルノ有様ニシテ、取引頻繁ナルモノニアリテハ少キモ年五十弗多キハ數千弗ニ達スト云フ。

其ノ他各種ノ代理業務保證事務等ニ關シテハ事務ノ性質ニヨリ相當ノ報酬ヲ

受クベキモノニシテ其ノ詳細ハ到底知り難キヲ以テ茲ニ略スル事トセン。

以上ニ於テ信託會社ノ行フ主要ナル事務ニ對スル報酬ヲ述ベタルガ其ノ報酬支拂ノ時期ニ關シテハ原則トシテ事務終了後並ニ收益ヲ收メタル後受クベキモ、受入額ニ對シ一定ノ割合ヲ徵スル場合ハ受入ト同時ニ之ヲ受クルヲ例トシ、場合ニヨリ半額ハ受入ト同時ニ他ノ半額ハ信託ノ終了ト共ニ受クルモノアリ、又時ニ信託終了後受クルモノナキニアラズト雖、收益ニ對スル報酬ハ一般ニ收益ヨリ受クルモノニシテ、時ニ各月末三ヶ月ヲ以テ計算スルモノアリ、取立支拂等ノ場合ハ其ノ事務終了ト共ニ之ヲ受ケ、其ノ料率ニ關シ法庭ノ承認ヲ要スル場合ニハ、其ノ承認後定メラレタル處ニ從ヒ之ヲ受クルモノナリトス。

次ニ英國官營受託者ノ收ムル法定手数料ニ就キ略述セン、是レ信託會社ノ業務ノ報酬ト目シ難シト雖、信託會社ハ其ノ報酬ヲ決定スル上ニ多大ノ參考トナルモノニシテ現ニ英國ノ信託會社ハ或程度迄之ニ倣フモノアリト云フ。

英國官營信託ニ於テハ其ノ報酬ヲ元本手数料、收入手數料、放資手数料ノ三種ニ大別シ其ノ原則ヲ法定ス、然レドモ信託ノ性質ニヨリ官營受託者ハ大藏省ノ承認ヲ得テ其ノ割合ヲ加減スル事ヲ得ルノミナラズ、其ノ報酬支拂方法ノ加キモ

大藏省ノ承認ヲ以テ適當ノ方法ニヨル事ヲ得、茲ニ注意スベキハ英國官營信託ニ於テ其ノ義務履行ニ當リ財産上ノ不足ヲ生ジタル場合ハ英國合同資金ヨリ支出スルノ規定ナルヲ以テ、此ノ合同資金不時ノ損失ニ備ヘンガ爲メ平素積立金ヲ爲スガ故ニ此ノ積立金ハ之ヲ受託手数料中ニ包含セザム。

第一 元本手数料 (Capital Fee)

元本手数料ハ信託引受ト共ニ其ノ半額ヲ徵シ、殘額ハ信託終了ト共ニ受クルヲ要スルモノニシテ、普通受託者 (Ordinary Trustee or Executor) タル場合ハ原則トシテ半額ハ前拂ヲ受ケ、他ノ半額ハ分割拂トスルガ如シ、而シテ信託引受ト共ニ受クベキ割合左ノ如シ。

元本價額	百磅ニ對スル割合
一、〇〇〇磅以內	一五志六片
一、〇〇〇—二〇、〇〇〇磅以內	五、〇
二〇、〇〇〇—五〇、〇〇〇磅以內	二、六
五〇、〇〇〇磅以上	一、三

信託終了ニ當リ受クベキ手数料モ、全ク同様ノ算定法ニヨル、而シテ何レノ場合

ニ於テモ其ノ最小額ハ五磅ヲ下ルヲ得ズ普通受託者タラズシテ單純ニ供託受託者 (Custodian Trustee) ノ場合ニハ各其ノ半額ナリ一千磅以下ノ小財産管理 (Administration of Small Estate) ノ場合ニ於テハ百磅毎ニ一磅ノ割ニシテ其ノ引受ト共ニ半額ヲ他ノ半額ハ財産ノ分配ヲ爲スト共ニ受ケ尙ホ土地信託條例 (Settled Land Act 1882) ノ下ニ土地ノ信託ヲ引受ケタル場合ハ引受ト共ニ五磅更新ノ場合ニハ更ニ引受ト共ニ五磅ヲ受ケ其ノ結了ト共ニ同様五磅ヲ受クルモノトセリ又信託基礎權ガ信託引受ノ當時委託者ノ所有中ニアル現實ノ財産ニアラズシテ受託者ノ中間行爲ヲ要スルモノハ特ニ一磅ヲ受ケ普通財産トナリタル場合ハ普通受託ト同様ノ割合ニヨリ手數料ヲ受ケ設定行爲ニヨリ或信託ノ下ニ借財スル場合ニ於テハ其ノ借入額百磅ニツキニ志六片ニシテ最小限一磅ナリト定ム。

而シテ受入財産價額ハ普通公賣價額ニヨルモノニシテ其ノ手數料ハ之ヲ徵スル時ノ財産ノ時價ニ對比スルモノナルガ故ニ信託終了ト共ニ受取ルベキ分ハ其ノ財産ノ時價ノ變動ト共ニ自然同様ノ變動ヲ爲ス。

第二 收入手數料 (Income Fee)

收入ニ對スル手數料ハ之ヲ收入ヨリ控除スルモノニシテ收入額ニ對スル年手

數料額左ノ如シ。

收入額	百磅ニツキ手數料
五〇〇磅以內	二磅
五〇〇磅以上	一磅

但シ本人又ハ本人ノ取引銀行ニ直接支拂フ場合ハ百磅ニツキ一磅ヲ超過シ得ズ又最小限度ハ十志六片ヲ下ルヲ得ズ、

第三 放資手數料 (Investment Fees)

公債社債株式ニ對スル放資ノ場合ハ仲買人手數料ヲ包含シテ百磅ニツキ十志ノ割合ナリ又土地賣買土地抵當其ノ他ノ擔保ニ對スル放資ノ場合ハ百磅ニツキニ志六片ナリ。以上ハ普通受託供託受託小財産管理ノ場合ノ手數料ニシテ犯罪人ノ財産管理ノ場合ハ其ノ管理人選任ト共ニ其ノ報酬ヲ定ムルモノニシテ豫メ法定セズ。

我國ニ於ケル所謂信託會社ガ其ノ業務ノ報酬トシテ受入ルモノハ大體ヲ示サン一般法律ノ規定ニヨル各種ノ法定代理人ノ報酬ニ關シテハ英米ニ於ケルガ如ク報酬ノ率ヲ定メズ即チ破産管財人ノ勤勞ニ對スル報酬ハ財團ヨリ第一ニ之

ヲ支拂ヒ其ノ額ハ破産裁判所之ヲ定ム(舊商法千九條)管財人ノ報酬額ハ一破産事件ノ全體ニツキ又ハ收入シタル價額ノ割合ニ應ジテ之ヲ定メ財團ノ配當アル毎ニ其ノ歩合ヲ以テ之ヲ支拂フベシ。(商法附則第四十三條)

遺言執行者ハ遺言ニ報酬ヲ定メタル時ニ限り之ヲ受クル事ヲ得遺言執行者ヲ裁判所ニテ選任シタル時ハ裁判所ハ事情ニヨリテ其ノ報酬ヲ定ムル事ヲ得親族會ハ後見人及被後見人ノ資力其ノ他ノ事情ニヨリ後見人ニ相當ノ報酬ヲ與フル事ヲ得又後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ有給ノ財産管理人ヲ使用スル事ヲ得。

不在者財産管理ハ管理ノ性質管理人ト不在者トノ關係其ノ他ノ事情ニヨリ不在者財産中ヨリ相當ノ報酬ヲ受クル事ヲ得。

相續財産管理人ハ不在者財産管理人ニ準ジ保佐人ニ關シテハ後見人ノ規定ヲ準用ス又一般ニ清算ニ關シテ直接報酬ニ關スル規定ノ存スルモノニシテ第三者ヲシテ法人ノ清算人タラシムルガ如キ場合ニハ報酬ヲ生ズル事ヲ常トスベシ清算人ノ報酬ニ關シテハ非訟事件手續法三十八條第二項ニヨリ検査役ニ關スル規定ヲ準用スルガ故ニ裁判所ハ會社又ハ組合ヲシテ之ニ報酬ヲ與ヘシムル事ヲ得而シテ其ノ額ハ取締役監査役又ハ組合及ビ會社以外ノ法人ノ場合ハ理事監事ノ

陳述ヲ聽キ裁判所之ヲ定ム一般財産管理人ニ就キテハ各個ノ契約ニヨル事勿論ナリ。

以上ノ如ク我國ニテハ破産管財人ヲ除キ其ノ他ノ法定代理人保佐人等ニ關シテハ報酬ヲ與ヘザルヲ原則トスルガ如ク只當事者間ニ約束アル場合代理人ト被代理人トノ關係如何等ニヨリ與フル事ヲ得ト定ム一般財産管理人ノ如ク當事者ノ契約ニヨルモノニアリテハ其ノ報酬ハ自由ニ之ヲ定ムル事ヲ得ルハ勿論ナリ只茲ニ注意スベキハ法定代理人ト雖其ノ就任ヲ辭スル事ヲ得ルガ故ニ多クノ場合ハ事實上報酬ヲ以テ就任ノ條件トスル場合多カルベシ。

所謂信託會社トシテ受クル報酬ニ就キテハ各會社ノ秘密ニ屬シ詳細ニ之ヲ知リ得ザルモ我國ニテハ米國ヨリ其ノ率一般ニ高キモノ、如シ茲ニ我信託會社ノ業務報酬ヲ述ブルニ先テ我信託會社ノ行フ業務ノ大體ヲ示サンニ資金運用受託土地建物ノ管理土地建物有價證券金錢貸借紹介土地建物ノ評價鑑定一般財産管理等ヲ主ナルモノトシ資金運用ハ預リ金積立金等ノ名目ノ下ニ年七八厘ノ高利ヲ支拂フモノモアリ是レ眞ノ信託金ニアラズ從ツテ放資手数料トシテハ知り難シ最近發達セル信託預金ノ手数料ハ卷末ノ補論ニ於テ之ヲ知り得ベシ土地建物

其ノ他一般財産管理ニ關シテハ管理ノ程度ニヨリ其ノ報酬ヲ異ニシ、有力ナル數個ノ信託會社ニ就キテ見ルニ、一般ニ一年毎ニ其ノ收入ニ對シ百分ノ十位ニ至リ、不動産有價證券賣買紹介金錢貸借ノ紹介等ニ對シテハ、其ノ報酬ハ多クノ場合金額ノ小ナルモノ高ク、金額大ナルニ從ヒテ低ク、千圓未滿百分ノ四、千圓以上五千圓位迄ハ百分ノ三、五千圓以上百分二、五萬圓以上百分ノ一、五、十萬圓以上百分ノ一前後ニシテ、或モノハ一體ニコレヨリ低シ土地建物ノ評價ニ關シテハ是亦其ノ金額ニヨリ差ヲ設クルモノ多ク、又同時ニ賃借料評價ヲ兼ヌルモノハ高ク、土地ハ二三千坪一個所ヲ標準トシ三四圓ノ報酬ヲ受ケ、坪數ノ増加賃借料ノ評價ヲ伴フヤ否ヤニ應ジ、十二三圓ヨリ二十圓ニ至リ、建物ニツキテモ、一ヶ所四五圓ヨリ二十四位ニ至リ各場合ノ事情ニヨリ異ル。

以上ノ外後見人親權者ノ財産管理ニ關スル事ヲ取扱フモノアルモ、未ダ營業トシテ發達スルニ至ラズ、其ノ報酬ノ如キ知ル事ヲ得ザルハ之ヲ遺憾トス、一般ニ銀行ノ行フモノニシテ普通信託業ト稱セラル、擔保附社債ノ引受ニ關シテハ、其ノ引受料ハ會社ニヨリ異ルモ普通社債現在高ニ對シテ年千分ノ二三、又利札配當ノ支拂等ニ關シテモ其支拂高ノ千分ノ一二等ナリ。

公債社債株式等ノ引受募集ニ關シテモ其ノ引受手数料募集取扱手数料ヲ授受シ、例ヘバ前者ニアリテハ引受高ノ一二分トスルガ如ク、後者ハ百圓又ハ一株ニツキ二十錢二十五錢トスルガ如シ、而シテ引受者ガ更ニ下引受ヲ爲サシムル場合ニ於テハ其ノ引受手数料中一半ヲ下引受料トシテ下引受者タル仲買人等ニ與フルハ當然ナリ。

第五章 業務發展策

凡ソ經營論ハ政策ト相對シ政策ハ主トシテ國家ノ利害ヨリ考ヘ、經營ハ經濟單位ノ經營上ノ利害即チ私經濟ノ利害得失ヨリ出發スルモノニシテ、兩者ハ一見相反スル立場ニアルモノ、如シト雖、元來各個ノ經濟單位ハ國家ノ經濟政策中ニ努力シ、經濟政策ハ各經濟單位ヲ基礎トシテ成立スルモノニシテ、兩者相俟チ初メテ國民經濟ノ發展ヲナス所以ナリ、只經濟單位ノ利害ヲ出發點トスルモノナルガ故ニ、經營ノ利害得失ヲ講ジ經營上ノ策ヲ論ズルハ、是レ即チ業務ノ發展策ヲ講ズルモノニシテ、經營論ノ全部ハ即チ發展策ト稱スル事ヲ得ベク、本編論ジ來リタルトコロハ皆是業務發展策ニ過ズシテ、信用ヲ重シ顧客ノ便ヲ計リ業務ノ組織ヲ遺憾

ナク完全ニシ、資金ヲ分離シ自己固有ノ資金ト信託金ヲ混同セズ、最モ完全ニ而モ亦有利ニ放資シ、出來得ルダケ低廉ナル手数料ニヨリ業務ノ繁榮ヲ計リ結局事業ノ目的タル利潤ヲ多カラシムルハ一トシテ事業發展策ニアラザルハナシト雖、特ニ本章ニ於テ述ベントスルハ更ニ根本的ナル積極的方針ナリトス、何ゾヤ信託會社ノ業務ト社會ノ知識ヲ密接ナラシムル事ナリ。即チ信託會社ノ行フ業務ハ社會ト如何ナル關係ニ立チ、社會ニ如何ナル利益ヲ與フルモノナリヤニ對シ、社會ニ充分ナル知識ヲ與ヘ其ノ結果安心シテ自覺的ニ之ト取引シ、輿論ハ趣味ヲ以テ之ヲ監督誘導スルニ至ラシムル事重要ニシテ、會社自身ヲシテ益發展セシメ社會ニ對シテハ其ノ機能ヲ能ク發揮セシムル所以ナリ。蓋シ信託會社ノ行フ業務ノ性質ハ煩雜多端ニシテ、其ノ利益ノ了解最モ困難ナルノミナラズ、固有ノ信託關係ニ於ケル受託者ノ性質責任等ハ法律上經濟上相當ノ知識ヲ有スルモノト雖、殆ンド之ガ自覺ヲ有セズ盲目的ニ之ト取引ヲナス場合ナキニアラズ、斯ノ如キハ業務發展上根本ノ缺點ナルガ故ニ、先ヅ會社ヲ利用セントスル社會一般ニ其ノ知識ヲ普及セシムル爲、或程度迄之ヲ教育セザルベカラズ、而シテ之ガ教育上採ルベキ手段ハ元ヨリ會社自身ノモヲ以テ能ク爲シ得ルモノニアラズ、之ニ對スル識者ノ意見

ノ發表新聞雜誌著述ニ於ケル學者ノ意見等最モ重要ナルハ言ヲ俟タズト雖、經營者自身モ亦常ニ此ノ方面ニ努力セザル可ラズ、其ノ方法トシテハ各般ノ業務實行上事實ニヨリテ之ヲ證スルノミナラズ、進デ廣告ノ力ニヨリ積極的ニ之ヲ行ハザル可ラズ。米國ニアリテモ信託會社ノ廣告ハ最モ進歩セルモノニシテ、各會社ハ皆之ニ全力ヲ注ギ、大ナルモノニアリテハ廣告部ヲ設置シ責任者ヲ置キ廣告上各種ノ手段ヲ講ジ大ナル費用ヲ費シ以テ其ノ普及ニ努力シツ、アリ、或會社ノ如キハ自己營業ノ直接ノ廣告ニアラズシテ、其ノ廣告費ノ大部分ハ信託ニ關スル一般の知識ノ普及ノ爲ニ支出シ、或モノハ大ナル費用ヲ投ジテ他人ガ行ヒタル一般的教育の廣告ノ效果ニ均霑シ、兩者ノ間ニ不公平ヲ生ジ惹キテ直接業務ニ關セザル一般的教育廣告ニ關シ大ナル費用ヲ支拂フモノハ、不利益ノ地位ニ立ツニ至ルガ故ニ、同業者ハ此ノ間ノ不公平ヲ除却シ、等シク其ノ利益ヲ享受スルノ趣旨ニ基キ特ニ廣告俱樂部ナルモノヲ組織シ、一般的廣告ニ關スル費用ハ其ノ結果ヲ等シク享受スル同業者ニ分擔セシムルノ策ヲ講ジツ、アルニ見ルモ、如何ニ信託會社ガ其ノ知識ノ普及ニ努メ、其ノ競争モ亦激烈ナルモノアルカラ知ルニ足ラン。

補論

(一) 最近ニ於ケル我國信託業ノ趨勢

信託竝ニ信託業ニ關スル研究益盛ナルト共ニ、其業務ノ實際モ亦長足ノ進歩ヲナシ、今ヤ種々ノ方面ニ於テ應用セラレ、當初奇恠ナル眼ヲ以テ眺メラレタリシ信託ナル語ハ、銀行倉庫ト言フガ如キ語ト相竝ンデ極メテ平易ニ用キラレツ、アリ。信用薄ク資力少キ所謂信託會社ガ其經營ヲ誤リ、社會ニ其ノ害毒ヲ流シタル例枚舉ニ違アラザリシト雖、大體ニ於テ信託事業經營者ノ態度眞面目トナリ、社會一般ノ信託ニ關スル觀念モ稍々進ミタルヲ以テ數年前ニ於ケル混沌時代ヲ經過シ今ヤ其發展ノ順路ヲ進ミツ、アルモノ、如シ、只我國ニ於テハ信託ニ關スル根本法規竝ニ一般信託會社法ノ存在セザルヲ以テ、事業經營者竝ニ取引者ノ自信定マラズ、不安定ナガラ姑息ノ手段ヲ以テ其必要ヲ充シツ、アル場合多キヲ以テ、所謂信託業務ノ發展ハ極メテ大ナル困難ニ遭遇シツ、アリ、例ヘバ信託金ノ運用ヲ委託スルニ當リ委託者自身運用金ノ名義人タルヲ欲セズ、サリトテ消費寄託ノ形式ニ

ヨリ受託者ニ全然預金スルヲ欲セザル場合、其放資ノ結果獲得シタル債權又ハ有價證券等ノ名義人ヲ受託者トシ、委託者受託者間ニアリテハ信託證書ヲ以テ、其内
部ノ契約關係ヲ定ムルヲ以テ大ニ便利有益トスル場合ノ如キ、又ハ財産管理ヲ委託スルニ當リ受託者ヲシテ其財産ノ法律上ノ名義人タラシメ、眞ノ財産所有者ヲシテ或程度迄對外的ニ其財産ノ處分權ヲ停止スルヲ以テ有利トスル場合ニ於テ
資金運用ノ爲メ、又ハ財産管理ノ目的ヲ以テ、其基礎權タル所有權債權其他ノ財産
權ヲ受託者名義ニスルハ、恰モ擔保ノ目的ヲ以テ其目的物ヲ債權者ノ名義ニナス
事ノ有效ナルガ如ク有效ナルベシト雖、其間ニ於ケル委託者受託者間ノ權利義務
關係ハ一種異様ノモノニシテ、判決例ノ進歩セズ特別法例ノ存在セザル我國ニ於
テハ常ニ或程度ノ不安ヲ懷キ、以上ノ方法ニヨリ實行セバ利便大ナルヲ豫想シ得
ル場合ニ於テモ、止ム事ヲ得ズ一般預金又ハ代理ノ觀念ニ從ヒテ之ヲ實行シ、信託
ノ特色發揮ヲ妨碍スル事決シテ尠ナカラズ、又一般信託會社法ノ存在セザルガ爲
メ其業務ノ範圍放資等之ヲ律スル何等ノ規準ナキヲ以テ、其經營粗笨ニ流レ惹イ
テ社會ニ害毒ヲ流シ信託事業ノ統一ヲ缺キ玉石混淆ノ有様ニシテ劣惡ナル經營
ヲナセル者ハ其ノ眞面目ナル經營ヲ行フ者ニ迄其ノ害毒ヲ及ボスノ形跡少ナカ

ラズ、元ヨリ具體的ノ法規コソナケレ監督官廳ノ當局ニ於テハ其ノ行政上ノ手心ニヨリ、其ノ設立業務ノ監督ヲ爲シツ、アルノミナラズ、今一段實際上ノ發展ト共ニ近ク信託法並ニ信託會社法制定ノ準備アリト言フヲ以テ大ニ吾人ノ意ヲ強フスルニ足り余ハ之ヲ待ツコト實ニ久シキモノナリ。

擔保附社債信託法ノ運用ニ慣レ、擔保附社債信託會社ニシテ擔保附社債ノ取扱ヲ爲スモノ漸次増加シ、益堅實ナル發展ヲナスノ形跡アルノミナラズ、所謂信託業務トシテ一般無擔保社債株式ノ引受募集賣出等ノ業務ハ、輒近資本證券ノ増加ト共ニ著シク、發達シ、特ニ證券引受團トシテ銀行業者ヲ以テ組織スル「シンデゲート」及主トシテ下引受募集賣出事務ヲ行フガ爲メ仲買人ニヨリテ組織セラル、所謂現物團又ハ信託團ト稱セラル、モノ、發達著シク、各重要市場ニ其ノ團體ヲ見ルニ至リ證券ノ一度市場ニ出デントスルヤ、銀行團ト現物團ハ東ニ呼ビ西ニ應ジ相策應シテ組織的ニ證券發行事務ニ當リ、事業資金ノ調達放資ノ指導上其ノ效偉大ナルモノアリ。

時局以來我國貿易ノ順調ニシテ事業界活躍セル爲メ、事業ノ新設擴張極メテ多ク從テ株式社債ノ發行セラル、モノ巨額ニ達シ、殊ニ爲替資金ノ調節友邦財政援

助ノ目的等ニヨリ、外國證券ノ我國ニ於テ發行引受セラル、モノ多キニ當リ、銀行團現物團ノ活動極メテ盛ナリシハ未ダ嘗テ見ザルトコロナリ、然レドモ吾人ノ特ニ最近我國ニ於ケル信託業務ノ傾向トシテ看過スベカラザル現象ハ他ニ是アリ即チ時運ノ進歩ガ一般信託會社ノ經營ヲシテ眞面目ニ其ノ特色ヲ發揮セシメントスルニアリ、其ノ勢力未ダ大ナラズト雖其ノ着眼ト經營ノ方針ハ吾人ノ雙手ヲ擧ゲテ贊セントスルモノ尠ナカラズ、關西信託會社ノ如キ其ノ規模ヤ決シテ大ナラズト雖、其ノ着眼點ノ良好ナルモノ多シ、社債ノ引受工場擔保貸付不動産擔保貸付ニヨル工業資金ノ供給、代理ノ形式ニヨル財産ノ管理有價證券ノ保護預リ、有價證券ノ賣買仲介公社債ノ利拂株式ノ配當拂其他組合團體等ノ金錢出納ニ關スル代理事務、土地建物ノ評價鑑定等ノ業務ハ未ダ大ニ珍トスルニ足ラズト雖モ、手形ノ引受裏書保證ノ形式ニヨル商工業資金ノ融通計畫、所謂代理貸付ナル業目ノ下ニ預金ノ形式ニヨラズ一定ノ手数料ヲ受ケ、會社ノ名義ヲ以テ資金ノ貸付ヲ行ヒ土地建物等ノ不動産ハ勿論有價證券其ノ他ノ財産ノ信託預リヲ爲シ、會社ハ其ノ財産ノ名義人トナリ是ニ對シ信託預リ證書ヲ發行シ其ノ讓渡ニヨリ財産ノ賣買移轉ニ便シ、又ハ信託預リ證書ヲ擔保トシテ金錢ノ融通ヲ計リ、借入金爲替貨物引

換證船荷證券其ノ他一般債務ノ保證ヲ爲シ、後見人保佐人ノ事務代理ニヨリ財産ノ管理處分ヲ引受ケ、或ハ遺言執行人又ハ其ノ代理人トシテ財産ノ處分管理ノ委託ヲ受ケ、更ニ進ンデ不動産關係事項ノ代辨會社ノ設立合併解設組織ノ變更清算委託ニヨリ事業又ハ財産ノ檢査及監督調査事務等廣ク一般信託業務ヲ行ヘリ、元ヨリ一小會社ノ事業トシテ直ニ之ガ大發展ヲ望ミ難カラシム、漸次社會ノ信託觀念ヲ指導シ其ノ業務ノ發達ヲ見ルベク、我國ニ於ケル信託業務ノ發展史上吾人ハ其ノ將來ヲ刮目シツ、アリ。

向ホ最近我國信託業務ノ傾向トシテ吾人ノ眼ヲ惹キタルモノアリ、即チ所謂信託預金竝ニ外國證券ノ賣買取扱業務是ナリ、信託預金ヲ取扱フモノニ特殊銀行トシテ臺灣銀行日本興業銀行アリ、一般銀行會社トシテハ、關西信託會社大信銀行等アリ、臺灣銀行ノ如キ大ナル成功ヲ見タルモノニシテ、將來更ニ類似ノモノ或ハ簇出セン、信託預金ハ銀行ガ長期預金ヲ多額ニ得ントスル手段ト稱スベク、一定ノ期間ト金額ヲ協定シ銀行ニ預入スルハ何等普通長期ノ定期預金ト異ラズ、只最短期限竝ニ最少金額ヲ限定スル場合アルモ是レ長期ニシテ金額ノ大ナルヲ歡迎スルノ方法ニ外ナラズ、而シテ法理上消費寄託ナル點ニ於テ亦一般預金ト異ナラズ、受

託者ハ數多キ人ヨリ其ノ預入金ヲ受ケ其ノ預リ證書ヲ發行シ預入金ハ一團トシテ共通資金ヲ構成シ、受託者ノ欲スル所ニ從ヒテ之ヲ放資シ、其ノ放資ノ結果獲得シタル財産權ハ受託者ニ歸屬シ預金者ハ何等ノ利害關係ヲ有セズ、只期限ノ到來ト共ニ預金者ハ元本利益ノ償還ヲ得ルノミニシテ此點モ亦定期預金ト異ル所ナシ、只普通定期預金ニアリテハ其ノ利息ハ豫メ一定ノ利率ヲ以テ事前ニ協定セラシ、モ、所謂信託預金ニアリテハ放資ノ結果生ジタル收益ヨリ一定ノ手数料ヲ控除シタル不定收益額ヲ預金者ニ返還スルヲ原則トス、只事後ニ於テ之ヲ一定ノ利廻リ計算ニ換算シテ返還スルハ不定收益ノ原則ヲ破壞スルモノニアラズ、原則ハ上記ノ如シト雖定期預金ニ高率ヲ付シ其爭奪盛ニ而モ信託觀念薄弱ナル我國ニ於テ、收益不定ナル場合ハ當初一種ノ不安ニ驅ラレ預金ノ吸收意ノ如クナラザル可シトハ實際家ノ着眼セル所ニシテ斯クテ利益配當ノ最低率保證トシテ表ハレ、一定期限ノ信託預金ニ對シ其ノ最低ノ利益配當ヲ保證シ、現實ノ收益ニシテ其協定最低率ヨリ少キ場合ニハ其ノ最低率迄受託者ニ於テ補充シ、收益ソレ以上ナル場合ニ於テハ更ニ之ヲ増加スルモノニシテ、所謂最低保證率ハ長期ノモノニ高ク期限短キモノニ於テ低シ、從テ手数料ノ如キモ信託手数料ト保證料ノ二種ニ區分

シ之ヲ收益ニ課スルモノアリ、又ハ單一ナル手数料中ニ實質上其ノ保證料ヲ包含セシムルモノアリ、而テ之ガ放資ノ道ハ長期貸付有價證券ノ買入等ニ存シ平素收益力大ナル銀行ニアリテハ相當有利ニ運用シ得ルヲ以テ、放資運用上ノ便否並ニ銀行會社ノ信用程度如何ニヨリ其ノ最低保證率ニ高下アルハ免レ難キ所ナリ、然リト雖確實ナル銀行ニアリテハ其ノ放資收益力ノ如キ自ラ一定ノ標準存スルヲ以テ、現實ノ配當率ハ實際上將來一定スルノ傾向ヲ有スベク、此場合ニ於テハ實際配當率ハ即チ恰モ最低保證率トナリ最低保證率ノ協定ハ殆ド空文ニ終リ、定期預金ヲ以テ一定利息ヲ豫メ協定スルモノト何等差異ナキモノト化シ、斯クテ高利ヲ以テ顧客ヲ吸收セントスル預金爭奪戰ノ結果ヲ惹起ス可シ、最低配當率ノ保證ハ決シテ信託金ノ特色ニ非ズ、信託金ノ特色ハ寧ロ其ノ收益全然不明ナルモ受託者ノ手腕ニ信賴シ其信用ヲ基礎トシテ出發スル點ニアリ、吾人ガ本論ニ於テ繰リ返シ述べタルガ如ク信託金ハ單ニ利益ノ大ナルヲ主眼トスルモノニ非ズシテ、財産ノ安全確實ナル保護ヲ以テ其ノ重大ナル目的トスルモノナレバナリ、故ニ我國今日ノ信託預金ハ或意味ニ於テ一種ノ長期預金吸收策トシテ表ハレタルモノト稱スルヲ得ベシ、茲ニ於テカ吾人ハ日本興業銀行ノ行フ放資ヲ指定スル信託預金並

ニ關西信託會社ノ取扱ヘル所謂代理貸付ヲ以テ信託金ノ特色多キモノナルヲ認メズンバアラズ、前者ハ委託者ノ放資證券又ハ證券ノ利率ヲ指定セル信託金ヲ預リ、其ノ趣旨ニ從ヒテ有價證券ヲ購入シ爾後委託者ノ物トシテ其ノ保管利息配當ノ取立賣却等ヲ行フモノニシテ、一定ノ手数料ヲ控除セル收益ハ委託者ノ所得トナリ、委託者ハ隨時其ノ放資物件ノ變換ヲ行フノ便宜モアリ、信託の特色ヲ發揮スルコト決シテ尠ナカラズ、而テ後者ニアリテハ證券其ノ他動產不動產ノ購入又ハ資金代理貸付ノ後ハ會社自身其ノ財產權ノ名義人トナリ、各般ノ事務ヲ代辨シ第三者ニ對シ其ノ財產權ノ主體トシテ活動セル點ニ於テ百尺竿頭更ニ一步ヲ進メタル計畫ニシテ其ノ實行ニシテ遺憾ナク受託者ノ信用ニシテ充分ナランカ、信託ハ正ニ最高度ニ於テ其ノ特色ヲ發揮シタルモノト稱スルコトヲ得可シ。

○更ニ最近吾人ノ注目ニ値スルハ銀行業者ノ外國證券ノ賣買取扱業務是ナリ、是レ正ニ放資信託金ノ運用ガ對外的ニ發展シタルモノニシテ、從來有價證券放資々々金ノ預託ハ日本興業銀行仲買店等ノ取扱ヒ來レル所ニシテ新現象ニハアラザルモ、放資方向ヲ外國證券ニ向ケタルハ一新機軸ト稱セザル可ラズ。時局以來我國貿易ノ出超其ノ他貿易外ノ關係ニ於テモ直接間接ニ我國ノ受取勘定増加ノ結果

或ハ外國債ノ償還借換ヲ行ヒ又ハ諸外國ニ對スル新債權ヲ獲得セル額尠ナカラザルモ尙ホ所謂在外正貨トシテ殘存セル手取額巨額ニ達シ其ノ運用困難ナルノミナラズ引續キ輸出貿易旺盛ナリシ結果内地買爲替資金ノ缺乏トナリ其ノ調節ノ關係上在外正貨ヲ内地資金ニ變換スル事急務ニシテ又同時ニ内地ニ於テ潤澤ナル資金ノ放資ニ關シ我財務當局竝ニ銀行業者ハ大ニ畫策シ其一方策ハ實ニ外國證券購買ノ仲介トナリテ發現シ日本興業銀行其ノ他橫濱正金銀行臺灣銀行等ノ爲替銀行ハ率先シテ之ヲ實行シ又有價證券取扱業者ニシテ其ノ取扱ヲ爲シタル者モ亦尠ナカラズ歐米ニ於ケル信託會社又ハ大銀行ノ證券業務ハ地理上國際的ニシテ英獨又ハ佛等ニ於テ外國證券ノ引受賣買ハ盛ナリシモ地理上ノ關係竝ニ從來我國ガ所謂債務國タリシ關係ヨリ對外的ニ有價證券ノ取引ヲ爲シタル事其ノ例少キモ時局以來局面一轉此現象ヲ見タルハ大勢ノカトハ言ヘ從來ノ外資輸入國ハ急遽外國ヘノ資金供給者トナリ外國證券ノ引受應募竝ニ其ノ購買ヲ爲スニ至レルハ誠ニ面白キ現象ト稱スルノ外ナシ。

我國信託業務ノ傾向中吾人ノ大ニ我意ヲ得タルハ最近保證業務ノ盛ニナリ來レル事ニシテ嘗テハ單純ニ危險視セラレタルモノ今ハ社債ノ元利拂保證債務ノ

保證手形ノ保證最低利率配當率ノ保證等ヲ專門的ニ行フモノアルニ至レルヲ見ハ或ハ近キ將來ニ於テ金融業者其ノ他取引業者ノ危險ハ或程度迄之ヲ專門的保證業者ニ轉嫁シ得ルノ形勢ニアリ只保證業務ハ其ノ性質上保證ノ經濟的實力資力ヲ具備スルニ至ラン事ヲ望マザルヲ得ズ蓋シ保證ハ經濟界ニ於ケル一種ノ保險業務ニシテ保證業者自體保證ノ責任ヲ破壞スルガ如キ事アラシカハ保證ハ寧ロ初メヨリ存在セザルニ如カザレバナリ吾人ガ本論研究中其ノ將來ヲ刮目シタル大連重要物產取引所ニ於ケル賣買取引履行ノ擔保取引ノ清算竝ニ其ノ餘力ヲ以テ取引者ニ對スル資金ノ融通ヲ目的トセル大連取引所信託會社ハ豫期ノ如ク成立シ更ニ各種納稅人工事請負人物品供給者ノ債務履行ノ保證身元引受保證其ノ他一般債務ノ保證ヲ主タル目的トシ併セテ事業資金ノ調達仲介公債社債竝ニ株式等一般有價證券ニ關スル引受賣買竝ニ保證會計士ノ職務等ノ經營ヲ標榜シテ立タントセル某有力ニシテ規模大ナル信託會社ハ出現ス可クシテ容易ニ出現セズ或ハ其ノ名稱ヲ改メ其ノ目的タル業務ヲ增減變更シ紆餘曲折以テ今日ニ至リタルモ果シテ如何ナル形ヲ採リテ經營スルヤ將來注目ニ値スル所ナルモ本論完結ニ際シ吾人漸ク其ノ成立ヲ見タルノミ我信託會社史上重大ナル事項トシテ讀

者他日ノ研究ニ保留セン。

無盡業務有價證券ノ月賦販賣ハ比較的下級社會ノ金融又ハ放資ノ方法トシテ、又取扱者ヨリ觀察スレバ一種ノ信託業務トシテ元ヨリ必要ナルモ其ノ弊害亦大ナルモノアルヲ以テ、其ノ適當ナル取締ト確實ナル經營ヲ要スル事ハ著者ノ既ニ論ズル所ニシテ、先年無盡業法公布セラレ又第四十議會ニ於テ協賛ヲ經タル有價證券割賦販賣業法ハ公布セラレタルヲ以テ、弊害多キモノハ倒レ確實ナルモノハ發達ス可ク是亦著者宿年ノ希望實現セラレタルヲ悦ブモノナリ。

終リニ我事業金融上信託業務史上特筆大書スベキモノアリ會社ノ新設増資ノ場合ニ於ケル株式ノ應募引受業務即チ是レナリ、株式ノ應募引受機關ノ存在ガ事業金融上極メテ必要ニシテ、社債ノ發行ト共ニ新株増資株ノ發行ニヨル資金ノ調達ハ株式會社財務上缺クベカラザル事ニシテ、輒近資本證券ノ増加國民經濟ノ發展ト共ニ其ノ有力ナル仲介機關ヲ要スルニ至リタルハ明カナルモ、其ノ業務ハ從來甚ダシク危險視セラレタリシガ、近時銀行仲買人等ニシテ其ノ實行ヲ爲ス者漸次増加シ社會ハ其ノ有力ナル中心機關ノ存在ヲ要求スルニ至リ、遂ニ大正六年大隈内閣ガ經濟調査會ヲ設置スルニ及ビ、工業資本證券ノ應募引受專門中心機關ノ

設置ハ重要ナル調査事項ノ一トシテ討議セラレ、特ニ中心機關ヲ新設スルノ不利ヲ避ケ日本興業銀行法ヲ改正シ、公債地方債社債ノ應募引受ト共ニ株式ノ應募引受ヲ爲サシムルノ件ヲ可決シ、種デ四十議會ニ日本興業銀行法改正ノ一ヶ條トシテ政府ニヨリ提案セラレ、其ノ協賛ヲ經テ法案ハ可決シ將ニ其ノ實行ヲ見ントスルニ至リ、同行創立當時ヨリ當局ニヨリ論議セラレ多年ノ問題タリシモノ漸ク解決スルニ至レリ。

株式ノ應募引受ノ事タル動モスレバ危險ヲ伴ヒ易ク、歐米諸國ニ於ケル動産銀行失敗ノ例モ少ナカラザルヲ以テ、其ノ經營ニハ細心ノ注意ヲ要ス可ク、有力ナル調査機關ノ活動下引受團ノ利用事業會社ノ監視監督宜シキヲ得バ、企業ト金融機關ハ一體トシテ發展シ社會ノ放資ヲ指導ス可ク國民經濟上ノ利害關係極メテ大ナルモノアラシ。

左 參考ノ爲メ臺灣銀行並ニ日本興業銀行信託預金規定要項並ニ日本興業銀行信託業務案内ヲ掲ゲ本論ヲ終ラントス。

臺灣銀行信託預金規定

第一條 當銀行ハ本規定ニ依リ信託預金ノ取扱ヲ爲スモノトス

第二條 當銀行ノ信託預金ハ適宜ノ方法ニ依リ之ヲ投資シ投資物ヨリ生スル收入利息中第四條ノ信託料ヲ引去リタル利益ヲ預ケ主ニ配當スルヲ以テ目的トス

第三條 當銀行ハ前條ノ投資ニ關スル一切ノ責任ヲ負擔ス

第四條 當銀行ハ信託預金ノ取扱并前條ノ責任負擔ニ對シ利益配當ノ都度左記信託料ヲ受クルモノトス

一 保證料 投資金額ニ對シ一ケ年千分ノ十五以内

二 手数料 收入利息ヨリ右保證料ヲ差引キタル利益ニ對シ

期限三ケ年未満 百分ノ十

期限三ケ年以上 百分ノ七以内

第五條 當銀行ハ預ケ主ニ對シ第二條ニ依ル利益配當ノ最低率ヲ保證スヘシ

前項ノ保證最低率ハ信託預金申込書及信託預金證書ニ記載シ預リ期間中變更セス

第六條 各信託預金ノ利益ハ當銀行所定ノ方法ニ依リ毎年二回計算シ各預ケ入

日ヨリ起算シタル毎六ケ月目ノ應當日(應當日ナキトキハ其月ノ末日)ニ於テ其前半ケ年間ノ利益ヲ配當ス

配當率ノ計算ハ年率厘位迄ニ止ム

第七條 當銀行ハ預ケ主ニ對シ信託預金證書ヲ交附ス

信託預金證書讓渡ノ場合ハ該證書ヲ當銀行ニ提出シ名義變更ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第八條 預ケ主ハ信託預金ノ配當利益受取人ヲ特定スルコトヲ得

前項ノ場合ニハ當銀行ハ信託預金證書ニ其旨ヲ記載ス

第九條 預ケ主及第八條ノ特定受取人ハ豫メ其印鑑ヲ當銀行ニ届置クヘシ

第十條 盜難紛失其他ノ事由ニ依リ信託預金證書ヲ喪失シタルトキハ直ニ當銀行ニ届出ツヘシ

第十一條 信託預金證書又ハ印章ヲ喪失シ又ハ盗用セラレタルニ依リテ生シタル損害ハ當銀行其責ニ任セス

第十二條 本規定以外詳細ノ事項ハ當銀行ノ定ムル所ニ依ル

備考 本預金ノ取扱ハ當分一口五千圓以上期限二ケ年以上トシ利益配

當最低保證率ハ當分左ノ通りトス
 期限三ケ年未滿ノ預金ハ 年五分五厘
 同 三ケ年以上ノ預金ハ 年六分

日本興業銀行信託預金規程要項

- 一、本行ニ對シ長期利殖ノ目的ヲ以テ基金預託ノ申込アルトキハ信託預金トシテ本規程ニ依リ之ガ取扱ヲナスベシ
- 二、信託預金以下單ニ預金ト稱スハ其取扱ノ方法ニ依リ左ノ二種ニ分類ス
 - 第一種預ケ主ヨリ放資證券ヲ特定スルモノ又ハ證券ノ利率ヲ指定スルモノ
 - 第二種最低利率ヲ保證スルモノ
- 三、預金ノ期限ハ參ケ年以上貳拾ケ年以内トス
- 四、第一種預金ハ一口ノ金額ヲ五百圓以上トシ第二種預金ハ一口ノ金額ヲ五千圓以上トス但場合ニ依リ之ヲ低減スルコトアルベシ
- 五、第一種預金ノ預ケ主ハ第二回以後ハ前條ノ制限ニ拘ラズ隨時適宜ノ金額ヲ預入シ制限額ニ達スルヲ待チテ同様ノ取扱ヲ委託スルコトヲ得

- 六、第一種預金トナルベキモノニシテ未ダ制限額ニ達セザルモノ又ハ未ダ放資ノ委託ナキモノハ其勘定殘高ニ對シ本行所定ノ特別當座預金利率ヲ以テ放資ノ前日迄利息ヲ附スルモノトシ毎年六月十五日及十二月十五日ノ貳回ニ之ヲ計算ス
- 七、第二種預金ノ最低保證利率ハ金融ノ狀況ニヨリ時々之ヲ定メ公示スルモノトス但既ニ契約シタル分ニハ其變更ヲ及ボサザルモノトス
- 八、第二種預金ノ利息及配當金ハ毎年六月十五日及十二月十五日ノ貳回ニ前半ケ年分ヲ計算シ其月ノ末日迄ニ之ヲ支拂フモノトス其預リ期間ガ半ケ年ニ滿タザルモノハ日割ヲ以テ計算ス
- 九、第一種預金ニ對スル放資證券ハ本行ニ於テ之ヲ保管シ所有者ニ代リ其配當金又ハ利金ノ取立ヲ爲スモノトス
- 十、預金證書ヲ讓渡シタルトキハ讓渡人ト讓受人トノ連署ヲ以テ名義書替ノ請求ヲナスベシ
- 十一、第一種預金ニ對スル手数料ハ證券面額又ハ株式拂込額ニ對シ左ノ割合ニ依リ之ヲ申受ケ壹ケ年毎ニ之ヲ前拂セシムルモノトス但壹ケ年ニ滿タザルモ

ノ八月割ヲ以テ計算ス

一、壹千圓未満

壹ケ年 五拾錢

二、壹千圓以上壹萬圓未満

同 壹千圓ヲ六拾錢トシ以上壹千迄毎

ニ拾五錢ヲ加フ

三、壹萬圓以上拾萬圓未満

同 壹萬圓ヲ貳圓トシ以上壹萬圓迄毎

ニ壹圓貳拾錢ヲ加フ

四、拾萬圓以上

同 拾萬圓ヲ拾貳圓トシ以上壹萬圓迄

毎ニ八拾錢ヲ加フ

十二、第二種預金ニ對シテハ半ケ年毎ニ左ノ手数料ヲ申受クルモノトス

一、保證手数料

預金額ニ對スル千分ノ拾(壹ケ年)

一、取扱手数料

總収益ヨリ保證手数料ヲ控除シタル殘額ニ對

スル百分ノ五

十三、第二種預金ノ預ケ主ガ利息又ハ配當金ノ受取人ヲ指定セントスルトキハ受

取人ノ印鑑ヲ添ヘ其旨ヲ届出デラルベシ此場合ニ於テハ預金證書面ニ其旨

ヲ記入スルモノトス

十四、預金證書又ハ通帳ニ基ク債權ヲ質入シタルトキハ預ケ主(受取人ノ指定アル

トキハ受取人ト共ニ)ト質權者トノ連署ヲ以テ本行所定ノ書式ニ依リ本行ノ

承諾ヲ請求セラルベシ

前項ノ請求書ニハ利息配當金ノ受取人ヲ指定シ且ツ質權者ノ印鑑ヲ添付セ

ラルベシ

第一項ノ請求ニ對シ本行ハ所定ノ承諾書ヲ交付スルモノトス

質權ヲ解除シタルトキハ預ケ主ト質權者トノ連署ヲ以テ本行所定ノ書式ニ

據リ其旨本行ニ届出ラルベシ

十五、預ケ主又ハ受取人(ノ名義ガ公共團體其他ノ法人又ハ組合等ノ代表者若クハ

管理者ナル場合其名義人ニ異動ヲ生ジタルトキハ新舊代表者又ハ管理者連

署シ且新代表者又ハ管理者ノ印鑑ヲ添ヘテ速ニ其旨ヲ届出ラルベシ但官報

ヲ以テ公表セラル、公共團體其他ノ法人ノ代表者ニ係ルトキハ此限リニア

ラズ

十六、第二種預金ノ約定期間滿了ニ際シ更ニ預金ヲ繼續セントスルトキハ本行所

定ノ申込書ニ預金證書ヲ添ヘテ之ヲ提出シ更ニ新證書ノ交付ヲ受ケラルベ

十七、預金證書、通帳又ハ印鑑ヲ喪失シ又ハ預ケ主若シクハ預金受取人ニ轉居、改姓名、改印等ノ異動ヲ生ジタル場合ニ於テハ遲滯ナク其旨ヲ本行ニ届出ララルベシ

前項ノ届出ヲ怠リタルニ依テ生ジタル損害ニ對シテハ本行ハ其責ニ任ゼザレモノトス

十八、預金證書又ハ通帳ヲ紛失シタル預ケ主ガ代證書又ハ通帳ノ交付ヲ請求セントスルトキハ本行ノ満足スベキ保證人ノ連署アル請求書ヲ提出セラルベシ
此場合ニ於テ本行ガ喪失ノ事實ヲ認メタルトキハ請求人ノ費用ヲ以テ官報及新聞紙ニ其旨ヲ廣告シ一ヶ月ヲ經テ尙發見セザルトキハ領收證ト引換ニ預金證書又ハ通帳ヲ交付スルモノトス

十九、相續ニヨリテ預金ヲ取得シタル者預金證書又ハ通帳ノ書換ヲ請求スルトキハ被相續人アルトキハ被相續人、被相續人ナキトキハ被相續人ノ親族二名ノ連署ヲ以テ本行所定ノ請求書ニ預金證書又ハ通帳ヲ添ヘテ提出セラルベシ
但場合ニヨリ相續ノ事實ヲ證明スベキ書類ノ提出ヲ求ムルコトアルベシ

二十、預金證書ニヨル預金ヲ引出サントスルトキハ證書裏面ニ領收ノ旨ヲ記入記名捺印シ之レト引換ニ預金ノ交付ヲ受ケラルベシ
通帳ニヨル預金ヲ引出サントスルトキハ通帳相當欄ニ其旨ヲ記入捺印シ之レト引換ニ預金ノ交付ヲ受ケラルベシ

備考

第二種預金ニ對スル最低保證利率ハ當分ノ内壹ケ年五分五厘トス
大正六年七月

第二種預金ニ對スル保證利率ハ當分ノ内壹ケ年六分トシ收益ガ保證利率ヲ超過シタル場合ニ於テ第十二項所定ノ手数料ヲ引去リ其殘餘ハ之ヲ預ケ主ニ配當ス但預ケ主ノ手取金額ハ年六分ヲ下ラザルモノトス

大正七年三月

日本興業銀行信託業務案内

信託預金

本行ニ於テ取扱ヲナス信託預金ハ左ノ二種トス

第一種 預金者カ有價證券ヲ指定シ又ハ單ニ利率ノミヲ指定シテ證券ノ買入方ヲ本行ニ委託セラル、トキハ預金ヲ以テ適宜購入ノ上之ヲ保管シ且利子又ハ配當金ノ取立ヲナス

第二種 預金ニ對シ一定ノ利息ヲ支拂フコトヲ保證シ且預金ノ運用ニ依リ保證利息ヲ超過セル收益アルトキハ所定ノ手数料ヲ差引キ其餘分ヲ預ケ主ニ配當ス

財產管理

土地建物其他各種財產ノ所有者ニシテ海外ニ旅行シ若シタハ其他ノ事情ニヨリ其所在地ニ居住セザルタメ又ハ財產ノ所有名義人が未成年者ナルタメ其管理ニ不便ヲ感ズル場合其他財產ヲ一家子孫ノタメ安全ニ保存セントスル人々ノ爲メ本行ハ責任ヲ以テ之ヲ管理保全シ地代家賃等ヲ取立且其取立金額ノ運用利殖等一切ノ取扱ヲ爲ス

披封保護預

國債證券、株券、社債券其他ノ有價證券ヲ最モ安全確實ニ保管シ且保管證券ノ元利金又ハ配當金ノ取立、株金ノ拂込、名義書換等其所有ニ伴フ煩雜ナル手續ヲ代辨ス

封緘保護預

有價證券、貴金屬、寶石其他ノ貴重品ヲ入レタル函ニ封ヲ施シ其保管ヲ本行ニ委託セラル、トキハ堅牢ナル倉庫内ニ之ヲ保管ス其容積ハ縱橫深共各二尺以內トス

貸 鐵 匣

本行倉庫内ニ設置セル堅牢ナル容器ノ使用ヲ提供スルモノニテ其取扱手續嚴重ナレバ絶對ニ盜難ノ虞ナク有價證券、貴金屬、寶石其他貴重品ノ保管ニハ最モ安全ナルモノナリ

有價證券ノ賣買

内外國諸證券及株券ノ賣買委託ニ應ジ少額ノ手数料ニテ其取扱ヲナス

取立及支拂

公債、社債及株式ニ關シ左ノ事務ヲ取扱フ

- 一 株式拂込金ノ取立
- 一 公債ノ元利金及配當金ノ取扱
- 一 地方債社債ノ元利金及株式配當金ノ支拂

保 證

相當ノ擔保品ヲ受入レ社債元利金、納税又ハ諸契約ノ保證ヲ爲ス

擔保附社債

信託法ニ依ル擔保附社債ノ發行ニ付委託アルトキハ本行ハ受託會社トシテ最モ誠實ニ其取扱ヲナス

地方債社債及株式募集

創業以來内外國ニ於テ募集ノ經驗アレバ最モ有利ニ其取扱ヲナス
以上ノ外一般信託事務御便宜ニ取扱申ヘク尙詳細ノ事項ハ本行へ御照會被下候
ハバ明細御回答可申上候

(二)我國ニ於ケル信託預金ト其ノ政策

信託預金政策ハ信託預金ノ性質ト其ノ利害得失竝ニ其ノ金融經濟上ニ於ケル關係ヲ明カニシ理ニ反シ弊ヲ生ジ易キモノハ之ヲ廢セシメ、其ノ經路ヲ誤レルモノニシテ是正宜シキヲ得バ有益ナル結果ヲ得ベキモノハ之ヲ善導シ以テ信託預金ヲ正當ニ發達セシムル手段方法ナリ。

從來我國ニ於テ信託ニ關スル應用ハ廣ク行ハレ、擔保附社債信託ヲ始メ各種ノ

金融業務代理請負業務等ニ於ケル應用、手形ノ保證取立質入ノ爲メニスル信託裏書、公債社債株式倉庫證券貨物引換證券船荷證券等ノ債務證券團體證券物權證券ニ對スル質權設定ニ當リ質ノ目的ヲ以テスル信託讓渡、質又ハ抵當ノ目的ヲ以テスル動産不動産債權ノ信託讓渡等最近著シキ發達ヲナシ、資金ノ受託方面ヨリ之ヲ觀ルニ或ハ信託金寄託金信託資金信託預金等各種ノ名稱ヲ用キ、所謂信託會社金融會社營業無盡業者仲買人銀行業者等ニヨリ取扱ハル、ヲ見ル、而シテ其ノ取扱振ニツキテ觀察スルニ其ノ初期ニ當リテハ名ニ信託ノ文字ヲ冠スルト雖、其ノ實信託者ト受託者間ニ於テ眞ノ意味ニ於ケル信託觀念ヲ以テスルモノ無ク、一般銀行預金ト何等ノ相違ナキモノニ對シ信託ナル輸入の未消化ノ語字ヲ用キ高利ヲ以テ世人ヲ惑ハシ、害毒ヲ社會ニ流シタル例決シテ尠ナカラザルハ世人ノ既ニ知レルトコロニシテ、資力薄ク信用高カラザル金融業者トシテ暫ク之ヲ怒スルトスルモ、大銀行ニ於テ其ノ眞ノ運用ヲ誤リ單ニ預金爭奪ノ一手段ニ供セントスルノ傾向ヲ見タルハ誠ニ遺憾ニ堪ヘザルトコロナリ、監督官廳ニ於テモ既ニ久シキ以前ヨリ其ノ整理善導ニ關シテ意ヲ用キ漸次正路ニ着カシメントシツ、アリ。

我國ニ於ケル信託金モ既ニ第二期ニ入り所謂信託預金トシテ一ノ典型ヲ形成

シ臺灣銀行日本興業銀行等特殊銀行ヲ主トシ其ノ他一二普通銀行及信託會社ノ行
ヒ來レル所ニシテ臺灣銀行ノ如キ本業務開始以來幾年月モ經過セザルニ拘ハラズ
大正六年下半年末現在信託預金ハ三千六十三萬餘圓ノ巨額ニ達シ預金者ヨリ之ヲ
見バ其ノ利廻リ普通銀行ニ於ケル定期預金以上ナルヲ以テ有力ナル銀行ニ於テ
スラ其ノ預金ヲ引出サレ臺銀信託預金ニ振替ヘラレタル額少ナカラズ諸他ノ銀
行ニ於テハ信託預金ノ取扱ハ許サレザルヲ以テ預金吸收策トシテ又信託預金對
抗策トシテ資金ニ付スルニ競争的高利ヲ以テシ預金ノ爭奪熱ハ正ニ絶頂ニ達シ
タルノ結果ハ財界ニ於ケル預金横溢ノ状態ト相俟テ一般ニ銀行ヲシテ膨大ナル
預金ヲ擁セシメタルニ拘ラズ他方好放資ニ窮シ經營難ヲ傳フルモノ少ナカラズ
普通銀行ニアリテハ自己ノ預金爭奪ハ之ヲ度外視シ特殊銀行ニ對スル特權的信
託預金ヲ以テ自己ノ預金吸收上ノ妨害トナシ一般銀行ニ對シ一様ニ信託預金ノ
取扱ヲ許スカ否ラザレバ一部ニ許サレタル信託預金ハ之ヲ廢止セシムルカ何レ
カノ方法ニ出ズベキノ主張ヲ有シタルモノ、如シ果然政府ハ大正七年六月中旬
ニ至リ臺銀興銀等ニ對シ從來取扱ヘル信託預金ハ將來新ニ新契約ノ取扱ヲ廢セ
シメ現存預金ヲ期限迄繼續シ滿期ト共ニ之ヲ整理セシムルノ命令ヲ發シタリ、或

ハ説ヲ爲スモノアリ政府ハ現在ニ於ケル信託預金ヲ正當ナルモノト認メズ、近ク
信託會社法ヲ制定シ其ノ一項目トシテ定型アル信託預金ヲ以テ將來之ヲ統一セ
ントスルニアリト、或ハ然ラン

近時我國銀行團ノ勢力漸次強大トナリ、公債ノ募集、社債、特殊銀行債券募集對支
放資等ノ關係ニ於テ市中銀行團ノ協力共助ヲ要スル事多ク政府竝ニ特殊銀行ノ
是等ニ依頼セザルベカラザル事情其ノ度ヲ加ヘ來レルヲ以テ政府モ亦彼等ノ主
張ヲ容認セザルベカラザルモノアリ、斯ノ如クシテ特殊銀行信託預金廢止ニ關ス
ル銀行團ノ主張アリ政府ハ時期ヲ同ジクシテ之ヲ斷行セリ。政府ノ信託預金廢
止命令ハ信託預金政策ヨリ出發セルモノモシテ、銀行團ノ主張トハ何等ノ因果關
係無キヤ又ハ之有リヤ吾人之ヲ知ラズト雖、前後ノ關係ヲ見バ其ノ廢止ノ理由思
半バニ過グルモノアラン、吾人ハ信託預金ノ存廢問題ハ信託預金政策上ヨリ決定
スベキモノニシテ行キ懸リ又ハ一時ノ權義策ハ全然之ヲ排斥セントスルモノナ
リ。

以下信託預金ノ性質並ニ其ノ政策ノ主眼ヲ概説セン。

普通ノ銀行預金ハ之ヲ法律上消費貸借ト解スルモ或ハ消費寄託ト解スルモ預

金關係消滅ニ至ル迄其金錢ニ關スル處分權ハ全然銀行ニ歸屬シ、銀行ハ預金ノ處分ニヨツテ得タル有價證券不動産債權其ノ他ノ財產權ノ主體ニシテ、只期限ノ到來ト共ニ一定量ノ元利ヲ預金者ニ返還スルノ義務ヲ負フニ止マリ、假令銀行ノ資產ハ預金者ニ對シ一般擔保タルノ性質ヲ有スト雖モ、預金者ハ銀行資產ニ對シ自己ノ所有權ヲ主張シ得ザルハ元ヨリ、自己ノ預金債權ニ對シ特別擔保ヲモ有セザルモノナリ。經濟上ヨリ見レバ銀行ハ一方ニ預金ヲ受ケ他方ニ之ヲ放出シ所謂資金ノ媒介ヲ爲スト雖、法律上ヨリ之ヲ言フ時ハ預金貸出等ハ資金ノ仲介ニアラズシテ銀行ハ貸入借人ノ相手方トシテ其ノ貸借ノ當事者タリ、此場合ニ於テ預金放出上ノ危險負擔者ハ銀行ニシテ預金者ハ自己ノ債權ニ對シ銀行ノ預金返還義務履行確否ノ危險ヲ負擔スルノミニシテ、假令銀行ノ放資ノ良否ハ間接ニ其ノ危險ヲ増減スベシト雖、放資物ニ關シ直接何等ノ危險モ責任ヲモ負擔セザルモノトス、是實ニ金融上ニ於ケル銀行ノ機能ニシテ之ニ依リ預金者ハ凡テノ危險ヲ銀行ニ轉嫁シ得ル所以ナリ。斯クテ期限中預金者ハ一定シ又ハ一定シ得ベキ利息ヲ受ケ期限ノ到來ト共ニ其ノ預金ノ返還ヲ受ケタルニ止マリ銀行ノ放資ノ結果生ズベキ收益竝ニ放資ノ危險ニ關シ直接ノ關係ヲ有セザルニ至ル、茲ニ所謂預金ハ普

通我國ニ行ハル、預金ヲ意味スルモノニシテ期限ノ長短確定期限付ナルト否ト利息ノ有無ハ其ノ要件ニアラザルハ之ヲ注意スルヲ要ス。

以上概説スルトコロハ預金ノ一般的性質ナリト雖、預金者ノ方面ヨリ之ヲ觀察スルニ人ニヨリ或ハ資金ノ性質目的ニヨリ普通預金ヲ以テ満足セザルモノアリ、例ヘバ社債發行會社ガ其ノ元利金ノ支拂ヲ金融業者ニ依頼シ或ハ會社ガ其ノ株式配當金ノ支拂ヲ銀行ニ委託スル場合ニ依頼者ハ其ノ支拂引當金トシテ受託銀行ニ一定ノ資金ヲ預託シ、或ハ公社債株式等ノ拂込金ヲ受ケタル場合ノ如キ我國銀行ニ於テ多ク無利息ノ信託金トシテ取扱フ所ニシテ是レ性質上普通預金ト異リ所謂代理關係ヲ基礎トシ代理事務執行ニ關シ一定ノ報酬ヲ授受シ依頼者ト受託者間ノ關係ハ之ヲ委任關係ト見テ何等支障ヲ生ゼザルベク受託者ヲ以テ本人ノ代理人ト解スルヲ以テ足り信託關係ノ存立ヲ必要トセザルモノト解セラレザルニ非ザルト同時ニ、財產ノ管理處分ヲ委託セラレタル一種ノ信託金トシテ取扱ヒ得ベシト信ズルモ放資信託預金ト異ルヲ以テ茲ニ一言スルニ止ム。

各種ノ法人組合團體其他特有財產ヲ有スル人ニシテ比較的長期ニ渡リ一定金額ヲ放資シ、年々確實ナル收益ヲ得ルノミナラズ放資ノ結果獲得セル各種ノ財產

ハ之ヲ自己ノ物トシテ保存シ、而モ其ノ財産ニ關スル保存管理ヲ信用アル人ニ委託シ場合ニヨリ其ノ放資物ノ買轉換分配其他ノ處分ヲ行ヒ、財産ノ確實ナル保存堅實ナル收益ノ獲得ヲ目的トセル場合ニ於テ、自己自ラ斯クノ如キ事ヲ爲スノ能力智識ナキカ又ハ之アルモ自己之ヲ爲スヲ欲セザルカ又ハ他ニ更ニ大ナル能力便宜信用ヲ有スルモノアランカ、之ニ委託セバ能ク其ノ目的ヲ達シ得ベク所謂放資保管ノ爲メニスル信託預金ノ生ズル所以ニシテ、實ニ一種ノ特色ヲ有スル資金ノ運用法タルベク到底普通預金ニヨリ其ノ目的ヲ達シ得ザルトコロナリ、或ハ斯ノ如キ目的ヲ有スル人ハ自ラ商業ヲ營ミ有價證券不動産其ノ他財産ノ購買資金ノ貸與竝ニ其ノ保管整理ヲ爲スニヨリ能ク其ノ目的ヲ達スル事ヲ得ベシト言フ者アラン、誠ニ然リ然リト雖前既ニ述ベタルガ如ク之ヲ専門業者ニ委任スルニヨリ便宜利益大ナル場合アルヲ以テ信託預金ノ發生ヲ見ルニ至ルモノトス。

信託預金ノ場合ニ於テ資金預託者ノ受クル利益ハ放資ノ結果生ズル收益其ノモノニシテ預金ノ利息ト其性質ヲ異ニス、受託者ハ收益中ヨリ報酬又ハ手数料ヲ控除スル場合アルモ、委託者ニ歸屬スル利益ハ放資ノ結果生ズル收益其ノモノナリ、假令委託者ハ其ノ放資物件又ハ利率等ヲ指定セル場合ニ於テモ、其ノ放資目的

物ヨリ生ズル收益ハ受託者ニ歸屬スルコトナク委託者ニ屬スベキモノトス、而テ信託預金ノ本質ハ收益ノ委託者ニ歸屬スルノミヲ以テ足レリトセズ、其ノ放資ノ結果即チ放資ニヨリ受託者ノ取得セル目的物ハ委託者受託者ノ内部關係ニ於テハ委託者ニ歸屬スベキモノニシテ、之信託ガ一般債權ト其效力ヲ異ニシ一種ノ物上代位性ヲ有スルノミナラズ英米ニ於テ無償惡意ノ信託財產取得者ニ對シ受益者ハ追從權ヲ有スル以所ニシテ當初ノ信託預金ハ受託者ノ手ニ存スル放資目的物ヲ基礎權トシテ其ノ上ニ信託關係ヲ及ボスハ元ヨリ受託者ガ任意ノ處分ヲ許サレタル場合ノ外追從權ヲ行使シ信託財產ノ無償惡意ノ取得者ニ對シ其ノ取戻シヲ得セシムルニアリ、受託者ハ第三者ニ對スル外部關係ニ於テハ信託預金又ハ其ノ放資物件ノ權利者換言スレバ其ノ名義人トシテ活動ストスルモ、受益者委託者ガ同時ニ受益者ナル場合ハ委託者ト言フモ實ハ受益者ナリニ對スル關係ニ於テハ信託ノ本旨ニ從ヒ目的物ハ受益者ノ爲ニ保管處分セラル、ニアリ、斯ノ如キ理由ニヨリ信託預金ノ本質ハ受益者別ニ箇人的ニ整理セラル、ヲ要シ、其ノ期限其他ノ信託條項ニ從ヒ受益者別ニ信託關係ノ存在ヲ明瞭ニスベキナリ、茲ニ箇別的整理トハ受託者受益者内部關係ニ於テ言フモノニシテ條件ヲ同一ニスル幾口

カノ信託預金ヲ以テ合同資金ヲ組成シ同一方面ニ於ケル同様ノ目的物ニ對スル放資ヲ排斥スベキニアラズ、假令甲乙ノ委託者ガ同一條件ノ放資目的物ヲ各指定セル時ニ於テモ又放資ニ關シ全然受託者ニ一任セル場合ニ於テモ、箇別整理ヲ害セザル限リハ受託者ノ外部ニ對スル關係ニ於テ資金ヲ合同シ同一目的物ニ放資スルモ何等ノ不可アル事ナシ、其ノ結果幾口カノ信託預金ハ結果ニ於テ同一ノ利廻リトナルベキモ何等非難スベキニアラズ、要ハ受益者別ノ箇別整理ヲ害セザルニアリ、例ヘバ放資ニ關シ指定ナキ幾口カノ信託預金ヲ合算シテ同一種類ノ公債社債株式ニ放資セル場合ニ於テハ其ノ放資物件ヲ信託預金ノ分量ニ應ジ其ノ額面買入價額ヲ割當テ人名別ニ整理シ得ベキモノニシテ、假令信託預金ノ期限ヲ各異ニスル場合ニ於テモ信託預金ガ其ノ有價證券ノ或倍數ナル以上ハ其ノ返還ニ支障ヲ生ズル事ハナカルベシ、信託預金ノ期限ト共ニ現存目的物ヲ賣却シテ金錢トシテ返還ヲ受クベキ委託アリタル場合ニ於テモ受託者ハ各受益者別ニ放資目的物ヲ返還シ得ルノ状態ニアラザルベカラズ、但シ信託預金ノ期限中公債社債ノ償還ヲ受ケ又ハ會社解散ニヨリ所有株式ニ對スル殘餘財産ノ配當ヲ受ケタルガ如キ場合對價トシテ得タル金錢ハ一時止ムヲ得ズ金錢トシテ受託者ノ手許ニ在

シ又ハ他ノ銀行ヘノ一時預ケトナル場合ナキニアラザルモ、此ノ場合信託關係ハ其ノ金錢又ハ預ケ金ノ上ニ存續スルコト、ナル、又同様ニ數口ノ信託預金ヲ以テ不動産ヲ買入レタル場合ニ於テモ受益者別ニ分割可能ナル場合ニハ、信託預金ノ期限ト共ニ其ノ對當額ノ分割返還ニ支障ヲ生ズル事ナシト雖モ、數口ノ信託預金ヲ以テ同一ノ船舶同一ノ建物同一ノ鑛區ヲ買入レタル場合ノ如キハ割當整理ハ不可能ニアラザランモ實物ノ分割ハ經濟上事實上不能ニシテ信託預金ノ各異ル期限ニ從ヒ分割返還スル事ヲ得ザルベク、受益者間ニ於テ任意賣買成立スルカ初メヨリ受益者間ニ共有ノ意思存スルカ、又ハ斯クノ如キ場合信託預金ノ放資ニ關シテハ受益者間ニ目的物ノ共有ヲ法定スルカ何レカノ道ニ出ズル外ニナシ、單ニ受益者ノ方面ニ於ケル共同ノミナラズ場合ニヨリ或信託預金ガ不動産買取リニ不足セル場合、其ノ一部ノ不足金ハ受託者自己ノ資金ヲ以テ共同放資ヲ行フトスルモ同様ノ事情ニ遭遇スベキナリ、只銀行ガ受益者ト共同放資ヲ爲スニアラズシテ其ノ不足金ニ對シ受益者トノ約定ニヨリ貸借關係ニヨリ一部ノ資金ヲ貸與セル場合ハ貸金トシテ別整理ヲ爲スベキニヨリ受益者トノ共同放資ノ問題ヲ生ズル事ナシ。結局人別整理分割返還不能ナルモノニアリテハ事實上信託預金一

口毎ニ放資セザルヲ得ザルベシ、此ノ關係ハ信託預金ヲ貸出金トシテ放資スル時ニ於テ殊ニ然リ、各信託預金ヲ以テ共通資金トシ貸付割引ヲ行ハシカ、各別ノ信託預金ハ其ノ期限異ルベク、假リニ其ノ期限同一ナルモノアリトスルモ、放資ニヨリ獲得セル各種ノ債權ハ其ノ期限區々タルヲ以テ、或種ノ信託預金期限到來ト共ニ其ノ現存債權ノ分割移轉ヲ行フ事ヲ得ズ、サリトテ信託預金ノ性質上當初ノ預入額ヲ返還スベキ性質ニアラズトセバ、不動産ノ場合ニ於テ述ベタルガ如ク受益者間ニ賣買契約成立スルカ共有ノ意思アルカ又ハ共有ヲ法定スルカニアラザレバ信託預金ノ共同貸出ハ不可能ニシテ、結局各預金別ニ貸出ヲ實行スルノ外ナシ。

上記數例ニヨリテ之ヲ見ルガ如ク信託預金ノ性質ハ外部關係ニ於テ受託者ハ信託預金又ハ其ノ放資ニヨリ獲得セル財產權ノ主體トシテ活動スルモ、受益者ニ對スル關係ニ於テハ信託ノ本旨ニ從ヒ其ノ放資管理ヲ行フベク、受託者ハ一定ノ報酬ニヨリ報酬ヲ得ルハ普通ノ狀況ナルモ無報酬元ヨリ可ナリ、信託事務ノ執行ニ任ジ、放資ノ結果ハ收益目的物共ニ受益者ニ歸セシメ、苟クモ事務執行ニ關シ英國信託法ニ所謂良家夫ノ注意ヲ懈ラザレバ何等ノ責任ナク、其ノ經濟上ノ危險ハ全部受益者ニ存スルモノニシテ、只受託者ノ經營拙ニシテ安全ト利益ノ程度ニ於

テ事實上受益者ノ満足ナキ場合ハ其ノ信託簿ヲ能ク其ノ目的ヲ達シ得ザルノ事。

爾テ我國ニ於テ最近一ノ定型ヲ成セル信託預金ハ如何。

臺灣銀行及ビ日本興業銀行ノ行フトコロハ其ノ細目ニ於テ多少其ノ取扱ヲ異ニス、ト雖モ、要スルニ最低金額及ビ最小期限ヲ定メ所謂信託預金ノ預託ヲ受ケ各信託預金ニ對スル最低配當率ヲ保證シ、銀行ハ其信託預金ヲ一關トシテ任意ノ方面ニ之ヲ放資シ其ノ收益中ヨリ信託料トシテ最低配當率保證料及ビ取扱手数料ノ一定割合ヲ控除シ其殘額全部之ヲ預金者ニ返還シ、預金者ノ受クル利息ハ如何ナル場合ニ於テモ其ノ保證セラレタル最低保證率ヲ下ル事ナク、信託預金ニ對シテハ信託證書ヲ發行シ其ノ讓渡質入ヲ爲スコトヲ得モシメ、信託預金ノ期限到來ト共ニ最初ノ預金額ヲ返還スルモノニシテ一種ノ特色ヲ有スル定期預金ト稱スベク、最低配當率ノ保證ハ決シテ信託預金ノ特色ニアラズ、普通定期預金ニ於テモ利息計算方法ハ如何様ニモ協定シ得ザルニアラズ、純粹ノ意味ニ於ケル信託ノ特色ハ吾人屢々述ベタルガ如ク、放資ニ關スル危險ハ受益者ニ存シ、放資目的物ニ對シ、物上代位性並ニ追從權ニ存スルノ點ニナリ、放資ニ關シ其ノ責任全然銀行ニアリ

受益者ニ於テ何等關係ナキ場合ニ於テハ之普通ノ消費貸借又ハ消費寄託ニシテ眞ノ意味ニ於ケル信託預金ト目スベキモノニアラズ、一種ノ形式ヲ具備シタル定期預金トシテ其ノ取扱ヲ許スハ可ナルモ、信託預金トシテ特別ナル特色ヲ有スルモノトシテ特權的ニ二三銀行ノミニ其ノ經營ヲナサシムルガ如キハ策ノ得タルモノニアラズ、又日本興業銀行ノ行ヘル放資ノ目的タル證券又ハ證券ノ利率ヲ指定シテ委託スル信託預金ニアリテハ信託ノ趣旨ニ從ヒ信託預金ノ放資ヲ實行シ、放資ニヨリテ得タル放資物件ハ預金者ノ物トシテ管理シ其ノ收入ヨリ一定ノ手數料ヲ控除シ預金者ニ返還スルモノニシテ、放資ニ關スル危險ハ預金者全部之ヲ負擔シ期限到來ト共ニ其ノ現存放資證券ヲ返還スルノ點ニ於テ信託類似ノ特色ヲ發揮スル事尠ナカラズ、其ノ放資目的物モ預金者ノ物ナルヲ以テ其ノ人名別ニ整理ス、最低配當率保證ノ信託預金ニアリテハ各口ノ預金ヲ共通資金トシ銀行ハ任意ニ之ヲ放資シ信託預金ハ之ヲ預入者別ニ整理シ其ノ預入期間保證率ニ應ジ其ノ收益ヲ計算スルモ、放資ニ關シテハ全體トシテ其ノ收支ヲ計算シ或期間ノ收入ガ其ノ期間ノ全信託預金ニ對スル利廻ヲ算出シ、其ノ利率ヲ各口ノ信託預金ニ對シ其ノ預入期間保證率ニ應ジテ割當テ配當ヲ爲シ、期限到來ト共ニ現存放資物

件ニハ些ノ關係モナク當初ノ預金額ヲ返還スルモノニ比シ信託的ノ特色ヲ有スル事多シト雖、コレトテ純粹ノ意味ニ於ケル信託ニハアラズシテ其ノ性質ハ有價證券ノ買入委託ト委託ニヨリ購入セル有價證券ノ保護預リノ結合セルモノト稱スベク、此方法ニ一步ヲ進メ眞ニ信託ノ特色ヲ發揮セントセバ放資物件ガ指定セラル、ト否トヲ問ハズ、放資物件ハ受益者ノ利益ノ爲ニ受託者ニ歸屬シ、外部關係ニ於テ受託者ハ自己ノ物トシテ管理處分ヲ爲シ放資ノ結果其ノモノニツキテハ協定セル手數料實費ヲ受クルノ外其全部ノ經濟上ノ利益危險ハ之ヲ受益者ニ歸セシメ、信託金ヲ各人別ニ整理スルト同様ニ放資物件ヲモ一口毎ニ整理シ全部ノ信託預金竝ニ其ノ放資物件ヲ自己固有ノ資金竝ニ所有物件ト確然區別スルノミナラズ、信託預金各口竝ニ其ノ放資物件モ人別的ニ整理計算シ信託預金ノ物上代位性ヲ明確ニシ期限到來ト共ニ何時ニテモ各口ノ信託預金ニ應ズル放資物件ノ分離處分移轉ヲ自由ナラシムル事ヲ要ス。

信託預金ノ性質ハ普通商業資金ト異リ單ニ利益多キ事ヲ欲スルノミナラズ、財産ノ確實ナル保存利殖竝ニ信託ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ要スルモノニシテ長期ニ亘ルヲ以テ通常トシ、簡別整理ヲ要スル點ヨリ見ルモ頻繁ナル資金ノ

廻轉間斷ナキ放資物件ノ變換ハ整理上殆ンド不可能ニシテ、從テ放資目的物ハ假令委託者ノ指定ナキ場合ニ於テモ自ラ制限的ノモノニシテ、到底一般銀行預金ノ如ク短期ノ手形割引爲替資金等ニ運用シ得ルモノニアラズ、論者或ハ此點ヲ捕ヘ箇別放資ヲナスガ如キハ到來金融業者ノ煩ニ堪ユルトコロニアラズト言フモノアリ、誠ニ然ル場合モ存セン、然レドモ信託預金ノ性質ニシテ上記ノ如シトセバ如何トモ致シ難ク、之ヲシモ厭ハバ信託預金ノ取扱ハ行ハレズ信託預金ハ其ノ存在ノ理由ヲ失ヒ一種ノ銀行預金トシテ取扱フノ外道ナケン。

更ニ又信託預金ハ其ノ金額ノ如何ニヨリ又ハ放資證券ノ償還債權ノ期限ニヨリ一時信託金ノ全部又ハ一部ハ受託者ノ手許ニ存スル事アルベシ、此場合ニ於テ放資ノ時期迄徒ラニ遊資ヲ抱クハ受託者ノ爲メ不利益ナルノミナラズ、英米ニ於テハ事情ノ如何ニヨリ信託違反ニ陥ルモノナルヲ以テ受託者トシテハ出來得ル限リ速カニ其ノ運用ヲ畫セザルベカラズ、受託者ガ同時ニ銀行ヲ經營セルガ如キ場合ニ於テ斯ノ如キ資金ヲ自己ノ預金トシテ預ルノ可善ニウキテハ受託者タル性質ヨリ英米ニ於テモ議論ノ存スルトコロニシテ、他ノ銀行其ノ他ノ者ニ公平ナル方法ヲ以テ預入スルヲ以テ可ナリトスベシ、此ノ場合受託者名義ヲ以テ幾口カ

ノ信託預金ヲ合一シテ他人ニ預託スルハ可ナルモ、受託者ニ對スル内部關係ニ於テハ同様ニ一種ノ放資ナルヲ以テ受託者別ニ整理ヲ要シ自己固有ノ資金ト混淆セザルヲ要スルヤ勿論ナリトス。

由是觀之我國ニ於ケル所謂信託預金ハ長期預金吸收策ノ一方式トシテ行ハレタルモノニ屬シ、其ノ性質ハ一般銀行預金ト大ナル差異ヲ見ズ、到底固有ノ意味ニ於ケル信託預金ヲ以テ目スベキモノニアラズ、斯ノ如キ見地ニ基キテ從來行ハレタル信託預金ノ取扱ヲ廢止セシメ、更ニ將來合理的ノ信託預金ヲ以テ之ヲ統一スルニアリトセバ吾人ノ大ニ贊スルトコロニシテ我國信託預金政策ハ正ニ一新機ニ入レルモノト稱スベク、信託會社法又ハ信託法ノ制定ニ當リ如何ナル主義定型ヲ以テ之ニ蒞ムヤ吾人ノ刮目スルトコロナリト雖モ、之ヲ概言スレバ政策ノ骨子ハ前所述ブルトコロニヨリ大體明カナルガ如ク、其ノ取扱業者ノ資格ヲ制限スルハ勿論、信託預金ノ性質效力ヲ法定シ、其ノ預金竝ニ放資物件ノ各人別整理法ヲ定メ、發達初期ニ於テ徒ラニ放漫ナル放資ハ弊害ヲ惹起スルノ患アルヲ以テ委託者ノ指定ナキ場合放資ノ制限ヲ設ケ其ノ制限ハ經驗ト共ニ漸次其ノ適用範圍ヲ廣メ、受託者ガ一時遊資ヲ有スル場合ニ於ケル其ノ處分管理方法ニ關シ制限ヲ加ヘ、

監督官廳ニ對スル信託預金取扱報告並ニ計算組織ヲ定メ、委託者又ハ受益者ニ對シ其ノ信託預金ノ現狀ヲ明瞭ニ報告セシムルノ方法ヲ採ラシメ之ヲ統一スルヲ以テ可ナリトスベシ。

放資證券又ハ證券利率ヲ指定スル信託預金ハ純粹ノ意味ニ於ケル信託預金ニアラザルモ、普通預金ト異レル一種ノ資金運用法ナルヲ以テ、之ヲ禁止スルノ理由ナク、日本興業銀行ニ於テモ依然其取扱ヲ繼續スル所以ニシテ、將來モ一種ノ信託預金トシテ一般信託會社ヲシテ取扱ハシムルモ不可ナカル可シ、只夫レ最低配當率保證法ニヨル信託預金ハ從來ノ慣習上行ハレタル普通預金ト形式ヲ異ニスルヲ以テ、便宜上信託預金ト認メ法ニ定ムト言ハ、議論ノ餘地ナキモ、果シテ普通預金ト異リタル取扱ヲ許ストセバ銀行以外ノ信託會社ヲシテ之ヲ行ハシメザルヲ得ズ、斯テハ實質ヲ同ジクシ僅ニ其名稱形式ヲ異ニスルガ爲メ取扱業者ノ預金競争トナリ、眞ノ意味ニ於ケル信託預金ノ發達ヲ害スベシ、然ラバ之ヲ一種ノ定期預金トシテ其實行ヲ許サンカ、銀行以外ノ信託會社ハ銀行條例ノ上ヨリ其ノ實行ヲ爲シ得ザル場合存スルノミナラズ、從來ノ預金觀念ヲ混亂スルノ惧レアリ、預金政策上ヨリ見テ賛成セザルトコロナリ。

論ジテ茲ニ至レバ信託預金政策上眞ノ意味ニ於テ、少クモ普通預金觀念ト牴觸セザル程度ニ於テ信託預金ノ定型ヲ定メ一般信託會社並ニ特殊銀行ヲシテ之ヲ經營セシメ普通預金ニ對シ其特色ヲ發揮セシメ其發展ヲ計ルヲ以テ策ノ得タルモノナリト信ズ。

(三) 信託會社ト保證業務

(大阪高等商業學校編纂商業及經濟研究大正八年四月十日發行第十四冊ニ掲載)

信託會社ハ現今歐米各國ニ其發達ヲ見ルモ米國ニ於テ最盛ニシテ、我國ニ於テモ日露戰爭前後ヨリ漸次發達ヲナシ、近時益盛ニシテ其勃興當時ノ如ク其數多カラザランモ其内容次第ニ改善セラレ會社ノ規模大トナリ、其業務ノ應用上各種ノ特色ヲ具有シ其活動モ亦大ヲ加ヘツ、アリ、信託會社トハ法理上ノ信託關係ヲ基礎トスル營業ヲ行フ會社ナリト言ハ、理論上ハ最明瞭ナランモ現實ノ信託會社ハ斯ノ如キ狹義ノモノニアラズ、所謂信託會社トハ其觀念法律上經濟上極メテ茫漠トシテ殆ンド一定ノ意義ナキモノ、如ク實際信託會社ノ取扱フ業務ノ内容ノ如キ初メヨリ合理的ニ又組織的ニ取扱ハレタルニアラズシテ、時代ノ要求、社會ノ

事情、經濟上ノ必要、法制ノ運用等ニ基キ漸次發展セルモノナルヲ以テ、沿革的ノ理由極メテ多ク從テ其業務ノ範圍頗ル廣シト雖其業目ノ増減決シテ尠ナカラズ、例ヘバ嘗テ其經營セル保險業務ノ一部ハ分離シ別ニ専門的保險會社ニヨリ經營セラルレ、又普通銀行業務或ハ貯蓄銀行業務ノ如キ之ヲ銀行業者ニ讓リ各固有ノ業務ニヨリ其特色ヲ發揮セントスルモノアリ、又信託會社ノ實際ガ法律ヲ產ムト共ニ或場合ニ於テハ豫定立法ニヨリ法ガ信託會社ノ營業ヲ規律スルコトアルヲ以テ苟クモ法律的ニ信託會社ノ基礎的業務範圍ヲ法定セザル限リ、信託會社ノ意義並ニ其業務範圍ハ合理的ニ之ヲ決定シ得ザル有様ナリ、例ヘバ我國ニ於テモ無盡業ノ如キ資金受託ニ關スル一種ノ信託業務ト稱シ得ベケンモ、既ニ無盡業法ニヨリ規定セラレタル特別ノ方法ニヨリ之ヲ經營スルヲ要スベク、有價證券割賦販賣業務ノ如キ亦其取締規定ニヨリ特別ノ方法ニ從ヒ之ガ營業ヲ爲スコトヲ要スルヤ言フ俟タズ、然レドモ是等ノ業務ハ苟クモ法定要件ヲ具備セバ何人モ之ヲ行フ事ヲ得ベク、特ニ信託會社ヲシテ是等ノ業務經營ヲ禁止セザル以上信託會社トシテ其經營ヲ爲ス事ヲ得ベク、信託會社タル名稱ノ下ニ之ヲ行ハバ信託會社業務ノ一タルベク、無盡會社又ハ金融會社ノ名稱ノ下ニ之ヲ行ハバ或ハ信託業務ト稱セラ

レザル事アルバク、有價證券割賦販賣ノ如キ有價證券ノ現物仲買人ニヨリテ行ハレンカ仲買業務タルガ如ク感セラレ、曾テ信託業務トシテ目セラレタル是等業務モ今日之ヲ其觀念ヨリ取去ルモ何等差支ヲ生ゼザル可シ、無盡業務ノ如キハ元ヨリ、有價證券割賦販賣業トシテモ營業者自體購買者ノ相手方トナリ之ヲ販賣スル場合ニ於テハ之ヲ信託業務ト目スベキヤニツキ議論ノ餘地アランモ、割賦購買ニ要スル資金ヲ受託金ノ名目ノ下ニ預リ、協定セル方法ニヨリ其購買取得、保管等ヲ行フ場合ニ於テハ是亦信託業務ノ一種ト稱スルヲ得ベシ、我國ニ於テハ保險業法ニヨリ保險會社ニハ他ノ事業ノ兼營ヲ許サズ、而テ保險業務ヲ營ムモノハ保險會社ナルガ故ニ、信託會社トシテハ法律上其經營ヲ爲シ得ザル可シト雖、銀行業務ノ如キ銀行條例ニヨリ預金貸付ヲ併セ行ヒ手形ノ割引ヲ行ヒ又ハ爲替業務ヲ行フモノハ何等ノ名稱ヲ用キルニ拘ラズ之ヲ銀行トシ銀行タルニ必要ナル條件的業務ヲ列舉セルモ、是等ノ業務ハ絕對的ノ意味ニアラズ、即チ是等ノ業務ノ一ヲダニ行ハバ銀行タルベキモ、銀行トシテ是等以外ノ業務ノ兼營ヲ爲シ得ザルノ意ニアラズシテ銀行業務ノ内容ヲ例示シタルニ過ギズ、故ニ今日ノ實際ニアリテモ所謂補助的又ハ附隨的業務トシテ保管、代理賣買、仲立等ニ屬スル事ヲ行ヘルハ明カニ

シテ、所謂信託業務ト稱セラル、モノ、大部分ハ之ヲ行ヒ得ザルニ非ラズ、又信託會社金融會社等ノ名稱ノ下ニ預金貸付又ハ爲替ノ業務又ハ手形割引ノ業務ヲ行ハンカ、ソハ銀行タル可シト雖、是等以外ノ代理業、仲立、請負ノ業務等ニシテ銀行ノ補助的業務トシテ觀察シ得ラル可キ業務ハ當然之ヲ行フ事ヲ得ベク、米國ノ如キ銀行業務ヲモ之ヲ以テ信託業務ト解スルモノアリ、從テ信託會社ヲシテ銀行業務兼營ヲ行ハシムル立法例多ク、假令銀行並ニ信託會社ハ互ニ其沿革上經營上自己ニ經驗多ク其技術進歩セル方面ニ分業的ニ經營ヲ爲シ、其利用者タル社會モ漸次其便宜利益多キモノニヨルノ常ナルヲ以テ、或程度迄分業的ニ其特色ヲ發揮センモ、法制上ヨリ見レバ銀行ハ信託業ヲ行ヒ得ベク信託會社亦銀行業務ヲ行ヒ得ベキニヨリ其競争ヲ惹起シ經濟機關ノ發展上摩擦ヲ生ジ其特色ノ發揮ヲ妨害スル事ナキヲ保セズ、我國ニ於テモ亦正ニ斯ル經驗ヲ經タルモノニシテ、信託會社ナル名稱ノ下ニ銀行業務、貯蓄銀行業務ノ兼營ヲ爲サバシムルハ可ナリト雖、銀行業務ノ政策ヲ誤リ銀行ヲシテ其利益少ク煩雜ナル所謂信託業務ヲ不熱心ニ而モ漠然タル觀念ノ下ニ行ハシメ、他方信託會社ニシテ之ヲ行ハンカ、却テ銀行類似業務トシテ之ヲ取締リ其發展ヲ妨碍シ、甚ダシキハ寧ロ其消滅ヲ餘儀ナクスルガ如キ

ハ分業的ニ其特色ヲ發揮セザル所以ニシテ、經濟上又社會制度ノ上ヨリ論ジ看過ス可ラザル事ニ屬ス、蓋シ信託業務ハ單純ナル經濟的ノモノニアラズシテ、或ハ財產ノ管理處分々配ト共ニ又ハ其裏面ニ相續、遺言執行、後見保佐、破産ノ處置、清算等ノ社會制度ノ運用ヲ有スルモノナレバナリ。資金ノ受託融通上ヨリ見ルモ銀行ト自ラ異ル特色ヲ有シ、單ニ財產ノ利殖出納ト言フガ如キニアラズシテ、確實ナル利益ヲ計ルト共ニ其安全ナル貯蓄權利ノ保全、現狀ノ改善ヲ主眼トスルモノニシテ、金錢受託ヨリ見バ貯蓄銀行ノ場合ニ類スルコト多シト雖、信託會社ハ自己ノ計算ニ於テ之ヲ運用スルヨリハ一定ノ業務報酬ノ下ニ受益者ノ爲メニ誠實ニ其運用保管利殖ヲ爲サシムルニアリ、是レ實ニ銀行預金ト信託金ノ相異ルトコロナリ、保證業務ノ如キ亦財產ノ確實ナル保存、資金融通ノ助長的機能ヲ有スルモノニシテ、信託會社任務中其ノ重要ナル一部ナリト稱スベシ。

以上述べタルガ如ク信託會社ノ業務ハ種々ニ觀察セラレ、銀行保險其他ノ財產的社會的の制度並ニ機關トノ關係密接ニシテ其區別モ亦容易ナラズ、其業務ノ範圍ノ如キ特別ノ立法ナキ限り具體的ニ之ヲ論ジ得ザルモ、之ヲ實際上ヨリ見ルニ極メテ廣汎ニ亘リ、米國ニ於テ Department Store of financial institution ト稱セラル、モ蓋

シ故ナキニアラザルナリ。

二

信託會社ハ普通銀行業務貯蓄銀行業務保險業務ハ暫ク之ヲ措クトスルモ其他ニ於テ遺言執行者相續財產管理人後見人保佐人破産管財人其他ノ清算人等トシテノ任務殊ニ是等ノ資格ニヨリ又ハ其資格者ヨリノ委任ニヨル財產ノ管理處分分配一般財產ノ管理處分有價證券ノ發行媒介元利配當金ノ支拂並ニ其取立株式社債類ノ名義書替登録ノ事務事業ノ合併組織變更其他各種ノ代理業務等ヲ行フト共ニ各般ノ保證業務ハ其重大ナル任務ノ一ニシテコレニヨリ被保證者ハ財產ノ保存資金ノ調達ヲ安全ニシ資金需給ノ投合ヲ便シ經濟的社會的活動ヲ助成スルコト大ナルハ言フ俟タズ是レ各國ニ於テ取引其他ノ契約ガ當事者ノ箇人性ヲ基礎トセル當時ニアリテモ個人的保證ノ行ハルヲ見ル所以ナリ一般民事ニ於テ行ハル債務ノ保證身元引受保證等之ニ屬ス然レドモ經濟並ニ社會狀態ノ進歩發展シ各般ノ取引ニ於テ相手方ノ箇人性ヲ基礎トスルノ程度漸次薄ラギ取引相手方ノ信用調査困難トナリ又債務ノ不履行ニヨリ生ズベキ損害ノ程度大ナルニ及ビ保證ノ必要益大ヲ加ヘ信用取引ノ進歩ト共ニ對物信用ノ衰ヘザルガ如ク

保證人擔保ノ取引ハ又一種ノ取引擔保方法トシテ有力ナルモノタルヲ見ルニ至レリ斯クテ最近發展セル經濟狀態ノ下ニアリテハ幼稚ナル個人的保證ハ其效果少ク漸次大ナル資力信用ヲ有スル專門的機關ノ存在ヲ要スルニ至レリ蓋シ保證ノ性質上保證者自體其保證的擔保力ヲ缺如スルガ如キハ其目的ト相反スレバナリ既ニ專門的保證機關ヲ生ズルヤ其經營ト組織ニ於テ營業的トナリ一種ノ營利業務トシテ其立場ヲ有スルニ至レルハ當然ナリ元ヨリ一般取引界ニ於テ今日尙ホ銀行業者其他利害關係ヲ有スル者ノ非營業的ノ保證多ク存在スルノミナラズ民事上ノ取引ノ如キ親族知己ト言フガ如キ個人的保證盛ニ行ハレ債務ノ保證ノ如キ銀行對個人ノ場合ニ於テヌラ未ダ個人的保證ノ域ヲ脱セズ專門的保證業者ノ保證ハ未ダ其例多カラズ身元引受保證ノ如キ或特殊ノ場合ニ限リ營業者ノ保險ヲ見ルト雖尙多クハ個人的保證ニヨリ或ハ被備人自身保證金積立法及ビ殆ド其實效無キ損害填補責任證書ニヨリ彌縫シツアルノ現狀ニシテ專門機關ノ活動ハ尙ホ將來ニ屬スルモ近時其機運次第ニ熟シ我國ニ於テモ保證信託會社ノ盛ニ起ルモノアルヲ見ルニ至レルハ注意スベキ事實ナリ。

三

然ラバ現ニ或程度迄實行セラレ將來大ニ其實行ヲ要シ而シテ最近我國ニ於テ大ニ發達セル信託會社ノ保證業務ノ内容ハ果シテ如何元ヨリ保證ノ應用モ其範圍廣ク而モ將來如何ナル方面ニ利用セラル、ヤ遺憾ナク之ヲ列舉シ得ベキニアラザルノミナラズ、或種類ノモノハ其經營上寧ロ保險組織ニ轉換スルモノモ存スベシ。是レ實ニ其最發達セル米國ニ於テモ亦經驗セルトコロナリ。然レドモ最重要ニシテ今日或程度迄進行ハレ近キ將來其發達ヲ要スルモノニシテ吾人ガ保證業務トシテ信託會社ニヨリ専門的ニ經營セラル、ヲ欲スルモノ多々是アリ。就中(A)手形ノ保證(B)社債元利拂保證(C)一般債務ノ保證(D)損害擔保保證(E)株式社債ノ引受保證(F)最低配當率ノ保證(G)資金融通保證等是ナリ。

茲ニ言フ保證ハ多ク法律上ノ保證ニ合致スルモ否ラズシテ寧ロ保障責任的ノ觀念ヲ有スルモノヲモ包含シ、經濟上保證的ノ效果アルモノヲ意味スルニアリ。而テ主タル債務存在ノ時期ヨリ見ル時ハ現ニ存スル場合アリ、將來生ズル事アルベキ債務ヲモ包含スルハ明カナリ、又以上列舉セルモノ、内多クハ理論上一般債務ノ保證中ニ包含セシメ得ベシト雖、吾人ハ經濟的ノ働キヨリ之ヲ觀察センガ爲メ實際行ハルベキ形式上或ハ營業者ノ取扱上ヨリ見テ之ヲ命名セリ。以下各目ニツ

キ其現況並ニ將來ヲ述ベ其略評ヲ試ミン。

(A)手形ノ保證

凡ソ手形ノ保證トハ法律上ヨリ言フ時ハ手形ノ振出人、裏書人、引受人等手形義務者ノ債務ヲ保證スルモノナルヲ以テ、支拂人ノ保證ヲ爲シ得ベキニアラズ、蓋シ引受ナキ以上支拂人ハ手形債務者ニアラズ、從テ其者ノ爲ニ保證ヲ爲シ能ハザル可シ、只手形保證ハ通常ノ保證トハ異リ主債務ガ無効ナルモ無効トナラズ、手形ノ形式完備セバ其主債務ノ實質上又ハ形式上無効タルヲ問ハズ保證トシテノ效力ヲ發生シ、保證人ハ主債務者ト同一ノ責任ヲ負ト、條件付又ハ制限的ノ保證ハ存在セズ、而テ手形保證ノ方式ハ手形謄本補箋上ニ署名スルノミニテ他ニ文言等ノ形式ヲ要セズ、以上ハ手形上ノ保證ニ關シテ述ベタルモ手形ニ關スル債務ヲ保證スルニハ所謂手形保證ニヨル事ヲ要セズ、手形ヲ離レ一般私法上ノ保證書ニヨリ債務者ノ或債權者ニ對スル個々ノ手形債務ニツキ、又ハ一定ノ限度内ニ於ケル將來ノ手形債務ニ關シ概括的ノ保證ヲ爲シ得ルモノタルハ明カナルトコロニシテ、假令手形面ニ保證人タラズトモ保證人トシテノ保證ノ任務ヲ盡ス事ヲ得ベシ、更ニ進ンデ手形面ノ引受人振出人又ハ裏書人トナリ、即チ表面第三者ニ對スル關係上

手形當事者トナリ、其實手形引受人、振出人又ハ手形面ニ全然表ハレザル資金需用者ノ爲メ其内部關係ニ於テ實際上保證的效果ヲ舉グル場合アリ、即チ裏書人又ハ振出人或ハ引受人トシテモ其必要資金ヲ直ニ資金需用者ニ交付スル事ナク、是等ノ行爲ニヨリ手形ノ信用ヲ高メ之ヲ他ノ銀行業者ニ割引ヲ依頼シ、其手取金ヲ資金需用者ニ交付シ、其名目信用ヲ貸スコトニヨリ資金ノ融通ヲ計ルモノニシテ、其實質ニ於テハ經濟上保證の機能ニ屬ス。是レ一部ノ論者ニヨリ法律上ノ手形保證ヲ要セズト唱ヘラル、理由ノ一ニシテ、今日手形貸付ニ當リ銀行業者其他信用アル利害關係者ニヨリ利用セラル、所ナリ、又所謂保證付割引ニ於テ代理店トシテ代理貸付契約ヲ爲スニ當リ、代理店ガ裏書讓渡ヲ爲シ以テ其再割引ヲ依頼セル第三者ノ振出裏書引受ノ手形ニシテ、手形支拂日ニ至リ手形債務者其支拂ヲ拒絶セル時ハ、該手形ノ振出裏書引受、償還ノ請求其他ノ手續ニ缺陷アルト否トヲ問ハズ償還セシムル場合ニ、其再割引依頼銀行ハ自己ノ當初割引セル手形ヲ裏書讓渡スルコトニヨリ手形面上其裏書人タル責任ヲ有スルモ、當初ノ資金需用者トノ關係ニ於テ保證的任務ヲ爲ス場合多カル可ク、再割引銀行ヨリ見テ保證付手形割引ト稱セラル、事アル所以ナリ、以上ノ如ク手形上ノ振出人、裏書人、引受人トナラズシ

テ個々ノ手形ニツキ又ハ概括的ニ若シ其手形ニシテ不渡トナランカ其支拂ヲ引受ク可キノ約ニヨリ、手形支拂保證ノ意味ヲ以テ行フ手形ノ引受アリ、此ノ場合ニ於ケル手形ノ引受トハ其經濟上ニ於ケル保證的働キヲ意味スルモノニシテ、法律上ノ手形行爲タル引受ト混同セザル事ヲ要スルモノニシテ、所謂廣キ意味ニ於ケル Acceptance ト稱セラル、モノ是ナリ。

是等ハ今日我國ニ於テ其保證自體ヲ營ムモノトセラレザルモ、手形割引又ハ資金融通ノ都合上實際行ハル、トコロナリ、只所謂ぶろゝかゝガ手形割引ヲ銀行ニ依頼スルニ當リテハ我國ニ於テハ手形ノ裏書人タラザルハ勿論保證責任ヲモ負擔セザルヲ常トシ、從ツテ手形仲買人ノ信用ニ依頼シテ取引セラル、モ手形仲買人トシテ徹底セザル場合ナキニアラズ、内國手形ニアリテモ保證ナキガ爲メ手形ノ信用ヲ阻碍シ取引ノ圓滑ヲ欠ク場合ナキニアラザルヲ以テ、近時手形ノ引受保證等ヲ一種ノ信託業務トシテ營業的ニ行フモノアルニ至レリ、況ンヤ外國爲替手形ニ於テ其必要大ナルニ於テオヤ。

外國爲替ガ主トシテ輸出入貿易代金決済ノ具タルハ明カナルトニシテ、輸出業者ガ其外國輸入者宛ノ手形ノ買取ヲ爲替銀行ニ依頼スルニ當リ、其爲替銀

行ニシテ海外支店ヲ有シ其輸入商人ノ信用状態ヲ明知セル場合ハ格別、否ラザル場合ニアリテハ其特約代理店又ハソレ以外ノ信用アル外國銀行ノ内地所在爲替銀行ニ宛テタル信用狀ヲ基礎トシ輸出業者ハ其手形ノ買取ヲ依頼ス可ク、又此場合外國輸入業者ノ信用狀ナキモ輸出業者ニ對スル内地ノ信用アル銀行其他ノ信用保證狀ニヨリ其買取ヲ受クル事ヲ得ベク、又以上ト反對ニ内地輸入業者ニシテ其輸入ヲ便スルガ爲ニハ、外國輸出商ニ對シ内地所在爲替銀行ノ輸出者所在ノ有力ナル銀行其他ニ宛テタル信用狀ヲ要スベキモノニシテ、是等ノ各場合ニ通ジ從來所謂信用狀ノ利用セラル、トコロナリ、固ヨリ信用狀ニハ各種ノ方式アリ、或ハ其發行者自身手形ノ支拂人タル事アルベク、支拂人ノ引受又ハ支拂ニツキ保證スル場合アル可ク、振出人ノ手形債務ニツキ保證スル事アルベシト雖、其保證的任務ヲ盡スニ至リテハ即チ一ナリ、斯クテ輸出入業者ノ爲メ專門的ニ保證ヲ爲シ其手形ノ賣買ヲ圓滑ニスルハ極メテ重要ナル事ニシテ、コレニヨリ手形引受市場、再割市場ノ確立ヲ促ス所以ナリ、近時我國ニ於テ信託會社ハ其保證狀ノ發行ニヨリ依頼人又ハ手形買取銀行ヨリ一定ノ保證料ヲ徵シ營業的ニ之ヲ行ハントスルモノアルニ至レリ、多數事實ヲ基礎トシ保險的大量計算ニヨリ資力信用充分ニシテ有

力ナル信託會社其海外支店代理店ヲ設ケ嚴重ナル信用調査ノ下ニ本業務ノ實行ニ當ルハ極メテ必要ナル事ニ屬ス。

(B)社債元利拂保證

社債ハ之ヲ擔保附ニテ發行スルコトアリ無擔保ニテ發行スル場合アリ、社債ハ株式ト異リ所謂債務證券ニシテ一般個人間ノ貸借ト其性質ヲ同ジクスルモ、之ヲ發行シ得ルモノハ株式會社ニ限り擔保附社債信託法ニヨル信託會社ニヨリ又ハ其他ノ第三者ニヨリ總額引受ヲ爲サシムル場合ニ於テモ、多クノ場合債權者タル可キ人ハ初メヨリ少クモ數人存在スルヲ常トスルノミナラズ、此場合ニ於テモ其引受社債ヲ分割シテ賣出ス事ニヨリ後ニハ其社債權者ハ多數トナルノミナラズ、全部一般募集ノ時ハ元ヨリ一部引受ノ場合ニアリテモ、其債權者ハ數百數千人ノ多數ナルヲ常トシ其社債權者ハ社債發行後ニ定マリ又常ニ移動スルモノニシテ擔保附ノ場合ニアリテハ其擔保權ハ社債發行前ニ成立スルヲ要シ、其擔保權ノ保存實行ニ任ズルガ爲ニハ、未ダ一定セズ將來確定スベキ總社債權者ノ法定ノ代理人トモ稱ス可キ受託者ヲ要スルトコロニシテ、此受託者トシテハ法定ノ手續ニヨリ免許ヲ得タル信託會社ヲシテ爲サシムルモノニシテ、信託會社ハ總社債權者ノ

利益ノ爲其社債ニ付ミラレタル擔保權ノ登記名義人トナリ其保存實行ニ任ズルニアリ、然レドモ信託會社ハ受託者トシテ受益者ノ爲其擔保權ヲ保存實行スルモノニシテ、自己固有ノ擔保權ノ保存實行ヲ爲スモノニアラザルガ故ニ、受託者トシテ各種ノ煩雜ナル義務ヲ負擔シ社債權者集會ノ承認ヲ要スル事項モ少ナカラザルヲ以テ其内容ハ極メテ複雜セリ、若シ有力ナル信託會社アリ社債ノ元利拂保證ヲ爲サンカ、社債ハ有利ナル條件ノ下ニ無擔保社債トシテ極メテ簡單ニ之ヲ發行スル事ヲ得ベシ、勿論一般債務ニ於テ物上擔保ノ外更ニ保證人甚ダシキハ二人以上ノ連帶保證人ヲ要求スルガ如キ我金融界ノ狀況ニ於テハ、物上擔保附社債ノ上ニ更ニ保證ヲ要求スル事ナキヲ保セザルモ斯クテハ手續ヲ更ニ一層増加スルノミニシテ實益少キヲ以テ無擔保ノモノ生ズベク、又此ノ如ク導クヲ以テ可ナリト信ズ、無擔保社債ノ場合ニ於テハ無擔保發行トシテハ信用足ラズ、爲ニ擔保附社債トナリ其煩雜ナル手數ヲ踐マントスルヲ、轉ジテ所謂無擔保保證付ノモノトナサバ其發行ヲ便スル事少ナカラザル可シ、我國ニ於テモ南滿州鐵道會社々債、東洋拓殖會社債券、東京市、橫濱市其他ノ市債ヲ外國ニ於テ發行セルニ當リ政府ハ其元利拂ヲ保證シ、内地發行ノ事業會社ノ社債ニ於テモ大銀行ノ保證セルモノ一二ヲ見

タル實例アリ、最近日本興業銀行ガ對外放資々金調達ノ爲メ發行セル興業債券ニ對シ政府ハ一億圓ヲ限度トシテ其元利拂ノ保證ヲ爲ス所謂豫算外國庫ノ負擔トナル可キ契約ヲ爲セリ、一般ニ保證業務ガ危險視セラル、如ク社債ノ元利拂保證モ一種危險ナルモノト看做サレ、第十九回帝國議會ニ於テ擔保附社債信託法討議ノ際既ニ立法者ニヨリテ豫想セラレシモ、實際社債元利拂保證ハ利用セラル、コト甚ダ少キガ如シ、是レ保證力ヲ具有スル有力ナル信託會社其他ノ保證機關存在セザリシニヨルベシト雖、物上擔保附カ否ラザレバ無擔保發行テフ一種ノ習慣性ニ囚ハル、モノナルベシ、近時有力ナル保證信託會社ノ發達ト共ニ之ヲ以テ營業ノ一種トナサントノ企畫ヲ見ルハ大ニ歡迎スベキ事ニシテ吾人ハ其實際上ノ發達ヲ望ムモノナリ、社債ノ保證ヲ危險視スルガ如キハ誠ニ意味ヲ爲ササル事ニシテ、保證者ハ其被保證者タル發行會社ノ信用ニシテ充分ナリト認定セバ擔保ヲ徵スルノ要ナキモ、否ラザル場合ニ於テハ自己ノ保證人タルノ地位ヲ確保シ其危險ヲ防止スベキ手段ハ多々存スベク、發行會社ヲシテ自己ニ對シ擔保ヲ提供セシムルモ其方法ノ一ナルベシ、保證ニヨル場合ニアリテモ保證會社ニ對シ擔保ヲ提供セバ、發行會社ヨリ見ル時ハ擔保附社債ニヨル場合ト異ルコトナキニアラズヤト

稱スルモノナキニアラザルモ、彼ト是トハ擔保ノ性質全然異リ、社債ニ擔保ヲ付スルハ擔保附社債信託法ノ支配ヲ受ケ、保證者ニ對スル擔保ハ一般私法上ノ擔保ニシテ、保證ノ場合ニハ保證人ハ自己ノ固有ノ權利ヲ確保スルガ爲メ其擔保權ヲ有スルモノニシテ、受託者ガ總社債權者ノ爲メ其保存實行ニ任ズルモノトハ全然異レバナリ。

(C)一般債務ノ保證

茲ニ一般債務ノ保證トハ前段(A)及ビ(B)ニ於テ述ベタル手形債務ノ保證及ビ社債元利拂ノ保證ヲ除キタル一般民商事ニ於ケル債務ノ保證ニシテ、次ノ(D)ニ於テ述ブルガ如キ將來發生スル事アルベキ不確定債務ノ保證ニ對シ、現ニ存在スル債務ノ保證トシテ狭ク觀察シタルモノナリ、凡ソ資金ノ調達方法ハ株式社債ノ發行ニヨル事アルベク、當座借越又ハ手形割引ニヨル場合アルベク、所謂借入金ノ方式ニヨリ證書貸附ノ形式ニヨル事アルベシ、借入人ニシテ物上擔保ヲ所有セザル場合ハ固ヨリ之ヲ所持スルモ借入額ニ對スル擔保力不足ナルカ、又ハ法制上、事實上擔保提供不可能ナルカ或ハ少クモ不便ト手數ヲ要スル場合アリ、又全然物上擔保ヲ有セザルモノモ存スベシ、是等ノ場合ニ於テ保證人擔保即チ人的保證ニヨル事

ハ往昔ヨリ行ハルハトコロニシテ、近時信用取引ノ盛ナルニ拘ラズ貸借關係ガ債務者ノ箇人性ヲ離レ從テ其信用調査困難トナレルノ結果ハ擔保附取引ハ多量ニ行ハレ、債務ノ保證ハ又資金需給上重大ナル機能ヲ有スルモノニシテ、一般民商事ノ貸借ハ固ヨリ、事業資金ノ借入ニ當リテモ金融業者ヨリ保證人甚ダシキハ數人ノ連帶保證人ヲ要求セラレ、之ナキガ爲メ他ニ大ナル缺陷ナキモ其貸借不成立ニ終ル例決シテ尠ナカラズ、保證者ノ立場ヨリ之ヲ見ンカ一片ノ義理ニヨリ保證ヲ爲ス程危険ニシテ苦痛ナルモノハナカルベシ、又債權者ノ側ヨリ見ルモ保證力少キモノ、形式的保證程實益ナキモノハ無カルベシ、經濟ノ進歩ト共ニ各般ノ取引漸次相手方ノ箇人性ヲ離ル、ガ如ク、保證モ亦保證人ノ箇人性ヲ離レ保證ノ背景ハ其保證者ノ經濟的保證力即チ其財力、辨濟能力如何トナリ、茲ニ習慣的ニ行ハレタル箇人保證ヲ以テ満足セズ專門的保證機關ノ存在ヲ要スルニ至レリ、財力、信用共ニ大ニシテ周到ナル調査監督ノ下ニ營業的ニ保證業務ヲ行ハンカ、假令保證料ヲ要スルモ債務者債權者ノ共ニ便宜トスルトコロニシテ、我金融市場ニ有力ナル保證機關ノ存在ヲ要スル所以ニシテ今日ぶろゝかゝ等ノ行ヘル保證義務ヲ負擔セザル單純ナル仲介機關ノ存在ト共ニ其必要極メテ大ニシテ近時信託會社ニシ

テ之ヲ以テ其業目ト爲ス者漸次増加スルニ至レリ、此等ハ金融業者ノ充分信頼シ其保證ヲ以テ或程度迄債務成立ノ條件ニスル迄ニ其資力信用ノ充實ヲ要スベシ。

D) 損害擔保ノ保證

前數段ニ述ベタル諸債務ニ關スル保證モ債務者ノ不履行ニヨリ惹起スル事アルベキ將來ノ損害ヲ擔保スル爲ノ保證ニ外ナラズシテ、其主タル債務ハ現ニ存在スルカ少クモ其發生ハ確實タルモノナルモ、茲ニ言フ損害ハ現ニ其債務存在セザルノミナラズ、債務ノ不履行ニヨリ損害ハ生ズルノミナラズ、或不法行爲等ニヨリ損害ヲ發生シタル場合、其損害ニ對スル債務ヲ保證スルモノニシテ、其發生ハ不確定ナル將來ノ事實ナリ、被害者ガ加害者ニ對シテ其損害ヲ賠償セシメタル場合ハ格別被害事實ノ發生ト共ニ保證者ハ保證金額ノ範圍内ニ於テ其實損額ヲ直ニ支拂フモノニシテ、保證者ハ更ニ被保證者ニ對シテ其求償ヲ爲スハ固ヨリ可ナリ、危險發生ノ豫測其他ニ關シ損害保險ニ類似スル點極メテ多ク一種ノ特色ヲ有ス。

大體ヨリ之ヲ言フ時ハ身元引受保證、諸取引ノ保證之ニ屬シ、所謂身元引受保證ハ即チ信認保證ニシテ Fidelityノ保證ナリ、其意味ハ廣ク單ニ銀行會社商店等ノ使用人、自治體又ハ官廳ニ於ケル官公吏ノ身元引受ノミナラズ、米國等ニアリテハ是

等ノ公私使用人又ハ役員ノミナラズ、受託者、遺言執行者、遺產管財人、後見人、保佐人、破産管財人、入札及ビ諸契約者ノ保證人トナリ、物品ノ授受又ハ請負工事ニ關スル契約ノ保證、訴訟入費納税ノ保證、法庭ニ出頭スル當事者ノ身元保證書ヲ蓋出ス等ノ事ヲ行ヒ、就中官公吏使用人ノ身元引受最モ盛ナリ、本業務ハ千七百二十年倫敦ニ於テ一會社ノ設立セラレタルヲ以テ嚆矢トシ、千八百四十年ニ至リ倫敦ニ有名ナルがらんち、そさいてい、ナナル會社設立セラレ、使用人官公吏等ノ不法行爲ニヨリ損害賠償ヲ目的トシ資本金五十萬磅ニシテ其營業大ニ發達シ、今日尙有力ナルモノトシテ存在シ法律ニヨリ會社ノ發行セル信用保證ハ身元保證金トシテ現金同様ニ取扱ハルト言フ、次デ歐米各地ニ同種會社ノ設立セラル、アリ、就中米國ニ於テ最盛ニシテ最近二三十年來長足ノ進歩ヲ爲シ、年々各社ノ收ムル保險料又ハ保證料七八百萬弗ヲ下ラズ、契約使用人數三百數十萬人ニ上リ保險又ハ保證金額三十數億弗ニ達スル盛況ニシテ、米國ニ於テハ其專門的保險會社又ハ保證會社ニヨリ取扱ハル、モノ尠ナカラザルモ、信託會社ニヨリ兼營セラル、モノモ亦尠ナカラズ、本業務ハ州廳ノ監督ニ屬シ保險監督官ニ一定ノ供託ヲ爲シ之ヲ行ヘリ、多數ノ使用人ヲ派シテ業務ノ説明勸誘ヲ爲シ、豫メ保證者ノ責ヲ負フベキ損害

ヲ協定シ其保證金額ノ範圍内ニ於テ實損額ヲ支拂フモノニシテ、官公吏使用人ニ對スル保證料ノ如キハ保證金額ノ四百分ノ一ヨリ百分ノ一前後ノ間ニ於テ危險ノ程度ニ應ジ之ヲ定メ、其損害高トシテ賠償スル金額ハ保證料ノ三割前後ニアリテ其營業成績モ概シテ良好ナルモノ、如ク之ニヨリ箇人ハ保證人タルノ依頼ヲ受クルモ自ラ保證人タルノ危險及ビ煩雜ヲ去リ、保證書ヲ提出スルヲ要スル人ヲシテ其保證ノ義務ヲ免レシメ、被保證者ヲシテ誠實勤勉ノ風ヲ養ヒ、保證會社ノ賠償ニ關シ訴訟ノ提起ヲ減ジ且ツ損害ノ賠償ハ迅速ニ行ハレ、會社ノ役員及ビ使用人自身又ハ第三者タル箇人保證者ニ對シ會社ノ不當ノ勢力壓迫ヲ除キ、被保證者ハ保證人ヲ得ルニ容易ニシテ雇主其他保證ノ利益ヲ受クルモノハ其損害ノ擔保力充分ナルヲ得ル等ノ理由ニヨリ舊來ノ箇人的保證、保證金供託法、身元保證金積立法等不便ナルモノ漸次衰頽スルニ至レリ。

我國ニアリテハ今日尙ホ舊來ヨリノ箇人保證行ハレ其不便利少ナカラザルハ皆人ノ知レルトコロニシテ、只橫濱火災海上運送信用保險會社ニ於テ明治三十八年以來之ヲ行ヒ來レリ、其方法ハ銀行會社商店等ノ使用人、公署ノ雇員其他團體組合ノ事務員等ガ竊取、詐取、費消、拐帶ノ行爲ニヨリ被保證者タル雇主ノ財産上ニ

及ボシタル損害ヲ保險金額以内ニ於テ實損額ヲ賠償スルモノニシテ、普通契約期間ハ一年トシ必要ニ應ジ更ニ之ヲ更新スルモノニシテ、使用人自體、性質上被保險人トナルヲ得ズ、雇主ヲ以テ其被保險者トナシ保險契約者ハ使用人ノ親族知己タルハ元ヨリ可ナルモ雇主自身ノ場合多ク、其保險料ノ如キ米國ニ於ケルガ如ク雇主ノ負擔スル場合多ク一人毎ニ一定金額ヲ保險スル單獨保險ト同一雇主ノ下ニアル五人以上ノ使用人ヲ共通的ニ保險ニ付シ、何レガ損害ヲ生ズルモ之ヲ賠償スル所謂共通保險ノ方法ニヨリ之ヲ行ヒ、開業以來漸次發達シタルモ未ダ微々タルモノニシテ其契約高尙ホ數百萬圓ニ過ギザル有様ナリ、其保險料ノ如キ使用人ノ性行職務、雇主ノ取締方法、契約ノ種類等ニヨリ異ルト雖、保險金百圓ニツキ普通一ケ年二圓乃至二圓五十錢ニシテ米國ニ於ケルヨリハ稍高キモノ、如シ其契約手續ニ至リテハ米國我國殆ド大同小異ニシテ、保證會社又ハ保險會社ヨリ印刷シタル申込用紙ヲ受取リ各其相當欄ニ保證又ハ保險金額、日附、受取人氏名、保險料又ハ保證料支拂人使用人ト雇主ノ關係、保證ヲ要スル理由、使用志願者ノ性行又ハ既ニ使用セル者ナラバ其期間、使用人ノ俸給額、其地位名稱、一回ニ保管スル現金ノ最高額、其金額保管ノ期間、保管金中ヨリ支拂ヲ爲スノ權アリヤ、其支拂方法、銀行ニ預金

スルノ義務アリヤ、預金銀行名、雇主拂ノ小切手ニ署名又ハ裏書ヲ爲シ、雇主ノ爲メ爲替手形ノ引受ヲ爲シ得ルヤ、署名ハ單獨ナリヤ、他人トノ連署ナリヤ、雇主ノ行フ諸勘定検査ノ方法、回数等又最終検査ニ於テ計算ハ正確ナリシヤ否ヤ、使用人ノ雇主ニ對スル債務ノ存否、同一使用人ノ爲他ニ保證ヲ爲スヤ、若シ爲シ又ハ爲サントセバ其保證者金額等、雇主ハ過去ニ於テ其使用人ニヨリ損害ヲ受ケタル事アリヤ、又爾後又ハ將來其豫防ノ方法等ニ關スル質問事項ヲ記入署名シ、會社ハ之ニ基キ又ハ其他信用調査ノ方法ニヨリ各種ノ事項ヲ調査シ、引受保險又ハ保證金額並ニ其料金ヲ定メ申込者ニ通知シ料金ノ拂込ヲ受ケ茲ニ契約成立スル順序ニシテ、米國ニ於テハ探偵又ハ興信所類似ノ機關ヲ利用シ常ニ被保險者ノ行動ヲ監視シ、一度ビ不正行爲ニヨリ損害ヲ惹起シタル者ニ對シテハ再ビ保證又ハ保險スル事ヲ避ケ、一定ノ長期間誠實ニ勤務セルモノニ對シテハ各種ノ獎勵法ヲ設ケ、現ニ横濱火災海上運送信用保險會社ノ如キ信用證明書ヲ發行シテ與ヘ、營業利益ノ一部ヲ使用人賞與金トシテ與ヘ、選獎貸與金ヲ設ケテ自立營業資本トシテ貸與スル等社會風教上ヨリ見ルモ極メテ重要ナリ。

次ニ各種取引ニ關スル保證ハ取引者ノ Credit ニ關スルモノナルガ故ニ信用保

證ト稱セラレ、保險ヨリ言フモ身元引受ニ屬スルモノハ嚴格ニ言ヘバ信認保險即チ Fidelity Insurance ニシテ、取引ニ關スルモノハ信用保險即チ Credit Insurance ト稱スベキモノナリ、其場合ハ種々アリ、製造業者對卸賣業者、卸賣業者對小賣商人、小賣商人對消費者、仲買人對仲買人ノ場合取引相手方ノ爲メニ其不履行違約ニヨリ生ズル事アルベキ損害ヲ保證スルモノニシテ、米國ニ於テハ仲買人並ニ小賣業者ノ消費者ニ對スルモノハ之ヲ一般ニ保證セザルガ如シ、是レ危險ノ豫測困難ナルガ故ナルベシ、我國ニアリテモ取引所場外ニ於ケル仲買人ノ行フ有價證券又ハ商品ノ取引ニ關シ保險又ハ保證ヲ爲スハ特別ナル箇人保證ノ場合ハ格別殆ンド見ザルトコロニシテ、又仲買人ノ取引所ニ於ケル取引ニツキテハ我國ノ取引所ノ取引ニツキテハ特別ナル擔保制度存在シ、取引所自體仲買人ノ賣買ヲ擔保スルハ人ノ皆知ルトコロナルモ、此擔保制度タル取引所自身ノ行ハザル可ラザルモノニアラズシテ、他ニ有力ナル保證機關アラバ之ニ委シ分業的ニ行ヒ得ベク、現ニ大連取引所信託會社ハ大連重要物產取引所ニ於ケル賣買ヲ擔保シ、其餘力ヲ以テ賣買ノ清算ヲ行ヒ又資金ノ融通ヲ爲スモノナリ。

以上各種ノ場合ニツキ之ヲ論ジタリ、由是觀之我國ニ於テモ本業務ノ發達ヲ要

スルモノ大ナルベク、官公吏、諸會社、組合等ノ役員使用人ノ身元引受、各種法定代理人、納税人、請負人、仲買人各種取引ノ保證ハ極メテ必要ナル事ニシテ、現ニ仲買人ノ如キ多額ノ保證金ヲ供託シ政府事業ノ請負人、入札者等ニアリテモ多額ノ保證金ヲ要スル場合アリ、從テ其不便ナル場合モ多カル可シ、是レ其専門的保證機關ノ發達ヲ要スル所以ニシテ、有力ナル信託會社ニシテ此方面ノ業務ノ開拓ニ當ラントスル傾向アルハ誠ニ當ヲ得タルトコロナリ。

(E) 株式社債ノ引受保證

株式會社ガ其創設又ハ擴張ニ當リ株式ヲ發行シ或ハ擔保又ハ無擔保ノ社債ヲ發行スルニ際シ其資金調達方法トシテ二種アリ、一般募集及ビ第三者ノ引受是ナリ、前者ハ一般市場ニ其應募者ヲ求ムルノ意ニシテ、後者ハ單數又ハ複數ノ第三者ガ其引受ヲ爲スモノニシテ、引受ニモ二種アリ一ハ引受者自身一手ニ之ヲ引受クルモノニシテ其引受證券ハ後日適當ノ機會ニ於テ之ヲ賣却スルカ、又ハ放資證券トシテ其全部或ハ一部ヲ所有スルモノニシテ Subscription ト稱セラル、モノ之ニ屬シ、二ハ一般募集ヲ前提トシ若シ應募不足ニシテ募集殘リヲ生ジタル場合ニ於テハ協定セル一定限度ヲ限リ之ヲ引受クルモノニシテ所謂 Underwriting 之ニ屬シ、

一般募集ヲ前提スルヲ以テ或ハ引受募集ト稱セラレ、又賣殘リノ引受ヲ保證スル關係ヨリ之ヲ見テ引受保證ト稱セラル、茲ニ述ベントスルハ即最後ノ引受保證ニシテ第一次ノ元引受保證ニ對シ更ニ再引受保證又ハ下引受保證ト稱セラル、モノアリ、引受保證、下引受保證ハ單獨ノ引受業者ニヨリ行ハル、例尠ク所謂金融業者ノ團體組合タルしんぢけトニヨリテ行ハル、事多シ、額面百圓又ハ一株ニツキ其引受保證額ニ對シ其引受保證料ヲ協定シ、發行會社ト協約セル引受保證限度内ニ於テ實際賣殘リヲ引受クルニアリ、之ヲ例センニ社債百萬圓ヲ發行スルニ當リしんぢけトニヨリ五十萬圓引受保證セラレ而テ賣殘リ三十萬圓アリタリトセヨ、其三十萬圓ヲ引受ケ又賣殘リ六十萬圓アリタル場合ニ於テハ五十萬圓ハ之ヲ引受ケ十萬圓ダケ之ヲ引受ケザルノ方法即チ引受限度内ハ實際賣殘リ全部ヲ引受クルアリ、又引受保證限度内ニ於テ實際賣殘リト引受保證額トノ比例ニヨリ之ヲ引受クルモノアリ、前例ニヨリ三十萬圓ノ賣殘リヲ生ジタル場合十五萬圓ヲ引受クルガ如シ、而テ引受團ハ更ニ其引受保證額ヲ團員間ニ適宜分配シ其殘リニ對シ按分比例ニヨリ之ヲ引受クルニアリ、元引受保證團ハ更ニ之ヲ下引受保證團ニ一定限度ヲ協定シテ引受保證ヲ爲サシメ、前例ノ如キ方法ニヨリ其引受ヲ爲

サシムルモノニシテ、下引受團ハ更ニ團員間ノ協定ニ基キ其引受ヲ各自ニ分配スルニアリ、斯クノ如クシテ元引受保證團ハ自己ノ保證額ノ大部分ヲ場合ニヨリ全部下引受保證セシムル場合アルハ勿論ニシテ、此場合引受手数料ノ一半ハ下引受手数料トシテ交附スルハ勿論ナリ、引受しんぢけトハ今日主トシテ大銀行ニヨリ行ハル、ヲ例トシ、下引受團トシテハ主トシテ小銀行、有價證券仲買人ノ取扱フトコロニシテ、社債發行ニ當リ大ニ利用セラル、モ株式發行ニツキテハ其利用極メテ微々トシテ振ハズ、企業金融上證券發行業務トシテ遺憾ノ點多ク、募集事務のDescription 擔保附社債信託事務ト共ニ引受保證ハ一種ノ保證業務トシテ重要ナル事ニ屬ス、近時我國ノ信託會社ハ一部募集事務ニ參加スル事アルモ、未ダ下引受保證ニサヘ關與セザルハ遺憾ニシテ、證券業務ニ熱中シ危險ヲ冒シ諸多ノ信託業務ニ害ヲ及ボシ其機能ヲ破壊セザル程度ニ於テ、募債募株市場ニ活躍シ其保證的任務ヲ盡スヲ要スベシ。

(F) 最低配當率ノ保證

茲ニ最低配當率ノ保證トハ我政府ガ從來特殊銀行會社ニ對シ創立後一定期間内其配當ヲ保證シ、最低配當ニ達スル迄之ガ補給又ハ補助ヲ爲スノ意ニアラズ、政

府トシテハ特殊事業保護ノ爲メ其必要ヲ見ルモ、一般事業會社ニ對シ或有力ナル保證機關生ジ、被保證會社ト其配當計算ノ方法ヲ協定シ一般株主ニ對シ或會社ノ最低配當ヲ保證スルノ機運ニ達スルヤ否ヤ今日ヨリ吾人ハ之ヲ豫見シ得ザルモ會社自身優先株ノ如キニ對シ或場合ニ最低配當ヲ保證セル場合ニハ、其性質ニ於テハ異レリト雖其配當又ハ收益ヲ受クル點ヨリ見レバ配當付社債ニ能ク類似スルモノアルヲ見ルナリ。

茲ニ所謂最低配當率ノ保證トハ最近信託預金ノ發生ト共ニ我國ニ起レル新現象ニシテ、一定金額一定期間ノ預金ニ對シ預金者ニ與フル最低ノ收益率ヲ保證シ實際ノ收益其ノ保證率以下ノ場合ニハ保證率迄之ヲ補充シ、一定ノ手数料又ハ保證料ヲ放資、收益ヨリ控除シ尙ホ最低率以上ナル場合ニアリテハ全部之ヲ預金者ニ返還スルモノニシテ、其保證タルヤ外部ノ第三者ノ保證ニヨルニアラズシテ預金ヲ受クル銀行又ハ信託會社自身ノ行フトコロナリ、先ニ臺灣銀行、日本興業銀行其他數者之ヲ行ヒ現ニ又之ヲ行フ銀行及ビ信託會社ノ存在スルハ明カナリ、臺灣銀行ノ如キ稍其成效ヲ見大正六年下半年末現在信託預金ハ三千六十三萬餘圓ニ達セリ、然ルニ大正六年七月政府ハ臺灣銀行及ビ日本興業銀行ノ兩者ニ對シ現存

殘高ヲ其期限ト共ニ整理セシムルト共ニ新取引ヲ禁止セリ、眞ノ意味ノ信託預金ニアラズトシテ將來眞ノ信託預金制度建設ノ爲メ之ガ廢止ヲ企テタルヤ、又ハ一種ノ定期預金トシテ從來ノ預金觀念ヲ混亂セシムルト共ニ偶々其利廻リ預金者ニ對シ良好ナリシヲ以テ預金爭奪ノ因タルヲ惧レタルニヤ吾人之ヲ知リ難シト雖、事實ハ上記ノ結果ヲ見タリ今日一二銀行並ニ數者ノ信託會社ニシテ之ヲ行フハ事實ニシテ眞ノ信託預金ノ性質ニ從ヒ其實行ヲ爲スガ故ニ其繼續ヲ爲サシムルニヤ、又ハ眞ノ信託預金ニハアラザルモ一種ノ特色ヲ有スル定期預金トシテ取扱ヒ其名稱不相當ナルモ過渡期ノ便法トシテ信託預金ナル名稱ノ下ニ之ヲ行ハシムルニヤ、同一理由ノ下ニ或者ニ對シテハ前ニ之ヲ許シテ更ニ之ヲ禁止或者ニハ初メ嚴ニシテ後ニ之ヲ許スノ理ハ吾人之ヲ解スル能ハズ、特殊銀行ヲシテ之ヲ行ハシメズト言ハハ即チ議論ノ餘地ナシ、又銀行ニハ許サズ信託會社ヲシテ之ヲ行ハシムト言ハハ相當ノ理由存スルモ、今日尙ホ一二銀行其實行ヲ爲スノ事實ヲ説明シ能ハズ、要スルニ所謂信託預金ヲ將來如何ニ取扱フヤノ問題ハ寧ロ信託預金政策上ノ事ニ屬シ、最低配當率保證ノ問題トハ關係ナシ、蓋シ最低配當率ノ保證ハ信託預金タルニ必要ナル條件又ハ其特色ニアラザレバナリ、偶々最低配當率ノ

保證ガ信託預金ト結合シテ現出シタルモ兩者ハ分離シテ之ヲ觀察スル事ヲ得ベク、最低配當率ノ保證法ハ株式配當、各種ノ預金ニモ適用シ得ル性質ノモノニシテ寧ロ保證業務トシテ其應用ノ一タリ、其保證セラル、率ハ勿論、ソレ以上現實ノ配當率ノ如キ其取扱銀行又ハ信託會社ノ信用並ニ資金運用ノ巧拙如何ニヨリ高下アルハ固ヨリ、其預ケ入期間長ク金額大ナルモノニ高ク否ラザルモノニ低シ、概シテ言ハハ漸次小ナル銀行信託會社ニヨリテモ取扱ハル、ニ至レルヲ以テ、最低金額ハ小トナリ百圓前後ヲ最小限トナスモノアリ、期限ノ如キモ一年位ノ比較的短期ノモノモ六七分ノ最低配當ヲ保證シ、甚シキハ最低期限三ヶ月保證率七分五厘見當ノモノモアリ、其發達初期ニ於テハ最小金額一口五千圓最短期限二年保證最低利率五分五厘ヨリ六分ノ間ニ於テ期限ニヨリ差異ヲ設ケタリ、今日ノ意味ニ於ケル信託預金ハ最近預金利率ノ協定ヲ爲セル銀行以外ノモノニヨリテ行ハル、ノ理由ニヨリ、其大ニ發達セバ協定ニ參加セザルモノト協定銀行トノ間ニ預金爭奪ノ具トナル可ク、協定銀行間ニ於テ將來其取扱ヲ爲サハルノ協定ヲ爲サバ別問題ナルモ、否ラズシテ其實行ヲ爲スニ至リ而モ所謂協定ノ内容タル定期預金以外ナリトシテ之ヲ除外セバ、コレニヨリ又預金爭奪ノ具トナル事ナキヲ保セズ、預金

協定其モノ、可否ハ別トシ將來ニ於テモ兩者ノ關係ハ密接ナルベク、信託預金政策ハ一ノ重要問題ニシテ信託預金ノ發達ヲ助成セル最低配當率ノ保證ハ我金融史上大ニ注目ヲ要スルトコロナリ。

(G) 資金融通保證

當座預金貸越ノ契約ハ即チ與信契約ニシテ、其根柢當ノ有無ヲ問ハズ一定約定期間一定ノ極度内ニ於テ資金ノ融通ヲ保證スルモノニシテ、信用狀ニ於テ其極度内手形ノ振出ニヨリ其手形ノ買取ヲ保證セラル、場合ニ類スルモ、前者ハ融通ヲ與フル銀行自體ノ融通保證ニシテ、後者ハ第三者ニヨリ其手形支拂人又ハ振出人ノ手形債務ヲ保證セラル、事ニヨリ融通ヲ受クル者ハ一種ノ融通保證ヲ與ヘラレタルノ結果トナル、茲ニ所謂資金融通ノ保證トハ上記ノ場合ト異リ最近我信託會社ニヨリ取扱ハル、ニ至レル新現象ニシテ、主トシテ有價證券取引殊ニ顧客ノ爲メ其購入保管ヲ業トスル信託會社ニヨリ取扱ハル、トコロナリ、凡ソ資金ノ借入レ殊ニ手形割引ヲ受クルニ當リ其擔保トシテ有價證券ノ大ニ適當ニシテ又盛ニ利用セラル、ハ明カナルトコロニシテ、金融業者ハ皆其内規ニヨリ擔保トシテ受入ルベキ有價證券ノ種類並ニ各有價證券ニ就キ其時價ニ對スル貸出率ヲ定ム

ルモノニシテ、日銀與銀等ニ再割擔保トシテ取引セラル、モノハ大ニ歡迎セラレ、否ラザルモ時價ノ變動少ク其處分容易ナル有價證券ノ如キハ銀行業者ニヨリ擔保品トシテ取扱ハル、モ、或種ノ有價證券ニ至リテハ何レノ銀行ニ於テモ擔保トシテ歡迎セザルカ又ハ借入人ハ非常ナル不利ノ條件ニ甘ンゼザル可ラザル場合アリ、斯ノ如キ場合ニ於テ其有價證券發行會社ノ利害關係ヲ有スルカ、借入人其他手形關係者ノ信用充分ナリト認定セラレ、又ハ他ノ多クノ金融業者之ヲ歡迎セザルモ其處分等ニ多大ノ便宜ヲ有シ、又特別調査ノ結果相當ナル價值ヲ認ムル場合ニ於テ其融通ノ道ヲ開クハ資金融通上重要ナルノミナラズ、大ニ歡迎セララル、有價證券ニアリテモ習慣的ニ低キ貸出率ニヨリ其流通的價值ノ一半ヲ徒ニ潜在セシメ其運用ヲ缺クハ國民經濟上ヨリ見ルモ損失ニシテ、之ニ對スル充分ナル融通ハ有價證券ノ流通性ヲ増加シ其取引ヲ盛ニシ發行會社ノ信用ヲ高メ延イテ其有價證券ノ信用ヲ向上セシムル場合存スベシ、元ヨリ全然不適當ナルモノニ對シ其融通ヲ計ルガ如キハ其弊害ト危險大ナルベク、是レ事實問題ニシテ融通者又ハ融通保證者ノ技倆ニ屬スル事多カルベシ。

或取引先ノ或有價證券ノ或分量ニ對シ金融業者自身或金額迄其融通ヲ承諾又

ハ保證スルハ問題タラズト雖、第三者ガ融通ヲ保證スル場合ニアリテハ先ヅ融通者ト保證者ノ間ニ一定ノ協定ヲ要シ、被融通者ノ債務ノ不履行アリタル場合ノ債務額又ハ擔保權實行ノ結果融通者ノ受クル不足額支拂ニツキ支拂保證ヲ爲サレバ本業務ハ其徹底ヲ缺クベク、斯クテ法律の債務保證ト結合スルコトニヨルカ否ラザルモ融通保證者ガ融通者ニ對シ經濟上至大ノ信用ヲ有シ、其紹介セルモノハ必ラズ融通者ニ於テ之ヲ引受クルノ約存在スル場合ニ於テ始メテ被融通者ニ對シ其融通ヲ Guarantee シ、若シ果シテ融通ヲ受ケザレバ自己代リテ融通ヲ爲シ其保證ノ責任ヲ果スコトニヨリ、融通者又ハ被融通者或ハ其雙方ヨリ保證料ヲ得茲ニ營業ノ基礎ヲ有スルコト、ナルベシ、只今日我國ニ行ハレントスルガ如ク信託會社又ハ信託業者ニシテ或銀行又ハ金融業者ノ分身或ハ其機關ニシテ、本業務實行ニ際シ前者ハ後者ニ對シ取引者ノ紹介、有價證券ノ鑑定、調査處分等ノ特別任務ヲ有スル場合ニアリテハ、形式上ハ獨立保證者ノ如シト雖モ其實質ニ於テハ *Department* ノ働キヲ爲スニ過ギザルヲ以テ、結局某銀行ガ某取引先ノ或有價證券ノ或數量ニ對シ融通ノ承諾又ハ豫約ヲ爲スニ外ナラズ、以上ノ方法ハ今日ニアリテハ有價證券擔保ノ場合ニ於テ之ヲ觀察セルモ、或種ノ商品事業資金等ニモ適用ス

ル事ヲ得ベク對人信用ニツキテモ之ヲ行ヒ得ザルニ非ザルモ要ハ融通者並ニ融通保證者ノ營業方針ニヨルベキハ勿論ナリ。

改訂 增補 信託及信託會社 終

大正拾年八月二十日改訂增補三版印刷
 大正拾年八月廿五日改訂增補三版發行

定價金參圓八拾錢

不
 訂
 改訂 借託及信
 增補 託會社
 複 製

著 作 者

細 矢 祐



發 行 者

大 葉 久 吉

東京市日本橋區本石町二丁目拾五番地

印 刷 者

青 柳 十 一 郎

東京市牛込區市谷加賀町一丁目拾二番地

發 行 所

東京市日本橋區本石町二丁目
 振替口座東京二八〇番

東 京 寶 文

關 西 專 賣

大阪市東區淡路町四丁目
 振替口座大阪四三番

大 阪 寶 文



東京寶文館發行書目

國際經濟論

早稻田大學教授 服部文四郎著
布裝全一冊
定價金參圓八拾錢
送料金拾貳錢

今次の世界的大戦争は其一面、國際的經濟競争に外ならずして、戦後此國際經濟的關係は益々紛糾せんとす。苟も經濟上に關係を有するの士は此際此世界の經濟關係に深甚の注意を拂ひ、之が研究を爲すの必要あり。本書は斯學に關する本邦唯一の權威たる服部教授が、其多年の蘊蓄を傾けて國際經濟に關する有ゆる方面に涉り詳述したるものにして、斯道關係者の必讀すべき名著なり。

日本銀行調査役 水野重也著
商學士

改訂 外國爲替

布裝全一冊
定價金參圓
送料金拾貳錢

歐洲大戦は端なくも我對外貿易をして意外の好況に向はしめ、遂に多年國際貸借上の債務國たる我國は一變して債權國となり、今や對外放資の聲盛んなるに至れり。されば我對外金融關係は是より愈益からんとするに當り、外國爲替の研究は益々切實を感ぜざんばならず。曩に著者が高遠なる理論を經とし、實際的事業を緯として公にしたる本書は、此時運に際會して、茲に大改訂を加へ、斯業關係者の座右に提供す。幸に一閱を俟つ。

米國經濟事情研究

神戸高等商業學校 内池廉吉著
布裝全一冊
定價金參圓
送料金拾貳錢

本書は著者が最近留學研鑽したる米國經濟事情の叙述にして、米國の經濟思潮・財政及金融・産業に涉り徹底的に説破せり。就中前大統領ケルソン氏によりて確然と樹立せられたる對内經濟政策は茲に闡明せられて餘す所なし。尙今次歐洲大戦の結果國費充實、今や發展を海外に企圖し著々事實に表はれつつあるの今日、此方面に於ける利害關係の密接なる我當業者が、本書によりて之が研究を爲すは最も緊急の務なるべし。

大阪高等商業學校講師 小林 綠著

實 國際爲替 (改訂)

布裝全一冊
定價金六圓五拾錢
送料金拾貳錢

本書者は東京高商卒業後、横濱正金銀行及外國銀行にありて、外國爲替事務に従ふこと多年、傍ら教鞭を執つて國際爲替に關して講説すること久し。本書は即ち著者が實験を叙説し、苟も外國爲替に關する實務に至りては細大漏すなく、微を究め、支を闡きて餘す所なし。されば斯業に直接若くは間接に關係あるの人士は勿論、斯學研究者の一讀を要する良書なり。

東京寶文館發行書目

訂修 第一卷 海運

小樽高等商業學校教授 阪本陶一著
布裝全一冊
定價金五圓八拾錢
送料金拾八錢

中外商業新報は本書を評して「能く組織的研究を施せり。海運に關する著書尠からずと雖も、本書の如きは一頭地を抜くもの」と稱し、時事新報は「簡潔流麗なる筆を以て詳述し、博引旁證一千有餘頁而其間一行一句の閑文字を見ず、理論整然たる組織的の好著」とせられたり。内容に於て航路・商港・船舶・船員・海運の發達現況、海運の組織及び特質、回漕同盟及び合同の如き海運一般と海運業の經營とを説けり

小樽高等商業學校教授 阪本陶一著

交通論 第三卷 都市及電氣鐵道

布裝全一冊
定價金參圓
送料金拾貳錢

近世に於ける都市及都市交通機關の發達は偉大にして、都市交通に關し經濟上並に行政上には幾多の重要問題ありて、學者爲政治家の講究を怠るべからざるものとす。本書は都市及電氣鐵道の概念と其發達とを總論とし、都市交通・近郊及都市聯絡鐵道の二章に次いで都市鐵道政策・公有論・公有營業論・公私營業論に分ち、都市鐵道に對する政策には、特許課税・公納金・報償金・特許に伴ふ各種の要求を論述せり。學者爲政治家のみならず一般市民の必讀書なり。

訂修 第二卷 海運政策

小樽高等商業學校教授 阪本陶一著
布裝全一冊
定價金參圓貳拾錢
送料金拾貳錢

本書は上段海運の姉妹篇にして、等しく好評を博せる名著なり。少壯有爲の著者は其獨特の筆を以て、本書によりて海運並に政策の一般を説き、海事行政、船舶、海員、航海業の四に分ちて其政策を研究論、各國海運史料と重要な統計とを附加したり。本館並に商業學、經濟學、海法の研究者及び經世家並に斯業實業家の必讀書として之を推薦す。

神戸高等商業學校教授 法學博士 津村秀松著

訂正 國民經濟學原論

布裝全二冊
上卷金參圓八拾錢
下卷金五圓五拾錢
送料各金拾八錢

東京朝日新聞の紹介に曰く、著者本書を出して版を重ねること數回、(中略)其間、著者研鑽の進むに従ひ、從來の著に儼焉たるものあり。今回訂正増補を加へて出版したるもの、即ち本書とす。能く北歐碩儒の學說を咀嚼し、著者一己の見によりて、組織論述を試みたる所、頗る其眞摯努力儘まざるを喜ぶ。國民經濟の原理を説ける唯一の好著也。

東京寶文館發行書目

神戸高等商業學校教授法學博士 津村秀松著

商業政策

布裝全二册
上卷金參圓八拾錢
下卷金五圓參拾錢
送料各金拾貳錢

豫て斯界に好評高かりし津村博士の商業政策は今回愈々完成出版せられたり。而して本書には商業政策に關する一切の問題は殆ど遺漏なく網羅せらる。引證の適確該博なるは何時もながら著者の著述に於ける特色なるが、本書に於て殊に其然るを見る。要するに近頃の出版界に於ける傑作中の偉なるもの、苟も經濟學研究に志すもの、必ず一本を座右に備へざるべからず。(時事新報評)

會計検査院副検査官 兼書記官 武藤榮治郎著

會計法規通論

布裝全一册
定價金四圓
送料金拾貳錢

本書は獨り會計法、會計規則のみならず、物品會計規則、官有財産管理規則、特別會計法、金庫規則、會計検査院法等の諸法規に涉り解釋を試み、學者の通説、判例各官廳に於ける見解、取扱振、會計検査院に於ける検査報告の事例等より會計事務整理上の注意會計法改正上の意見等に至るまで、苟も事會計に係るものは悉く之を網羅し盡して餘蘊なし。眞に關係者必讀の名著なり。

法學博士 關一著

工業政策

布裝全二册
上卷金參圓八拾錢
下卷金五圓五拾錢
送料金 上拾貳錢 下拾八錢

本邦に於て、労働者問題社會政策に關する論議の漸く盛んとなれるに當り、本書は其徹底的解決を爲すの指針なり。先づ労働者問題發生の原因を説き、個人主義を排斥して社會改良主義を絶叫し、進んで賃銀制度より職工組合、同盟罷業の豫防救済策に及び、更に工場法・労働者保險制度等、當面の問題を論評せり。眞に學者・實務家・經世家必讀の名著なり。

神戸高等商業學校教授 飯島幡司譯

ちの氏 經濟學原論

布裝全一册
定價金六圓五拾錢
送料金拾八錢

現今の經濟學界、究理に深くして構想の堅實なるは之を英のマーシャルに俟つべく、史實に博くして包容の富麗なるは之を獨のシユモラーに求むべし。若し夫れ深と博とを兼れて、説明に巧に含蓄の豊なるは佛のサード氏を舉ぐべし。本書は飯島教授が經濟學者として其憧憬せる本原書を我國に紹介するの義務を感じ、忙中拮据數年、遂に譯書成り茲に公表するに至れり。本譯書によりて我學界を裨益する蓋し僅少に非ざるべし。

384

4₁

終